

明治期日欧言語交流史の一研究

—— 井波他次郎纂訳『新撰英和字典』における訳語収載状況をめぐって ——

坂 本 浩 一

はじめに

明治期対訳辞書資料の調査分析は現代語語彙とりわけ漢語語彙の形成を知る上で意義深いものである。今次調査においては井波他次郎纂訳『新撰英和字典』を対象としてさらに基礎的データの追加蓄積を心がける。

当該資料の編者や言語資料としての基本的性質については既に今井(1969)や湯浅(2005)に詳しく指摘されている通りであり、訳語の採用にあたっては『増補訂正英和字彙』を主たる材料として活用したこと、また『哲学字彙』再版を利用していること等についても分かっている。湯浅氏は、主だった辞書資料が編纂にあたってどのような関わりをもっていたか、その大枠を確認された上で、次のように今後に向けた研究指針を示されている。

本書が『増補訂正英和字彙』以外にどのような編纂資料を用いて、見出し語を立項し、またその訳語を収集したのかということは、辞書史上見逃すことのできない重要な問題であると考える。

本稿は、湯浅氏が挙げられた当代辞書研究における課題の設定に沿って、『新撰英和字典』の訳語採用状況の一部について『英語節用集』『哲学字彙』といった資料と訳語の関係等をさらに細かく確認し、僅かなりとも基礎的な言語データを補充追加し今後の明治期対訳辞書研究に資する情報蓄積を図ることを目的とするものである。

このように課題を認識しながら、これまで稿者が重ねてきた『英語節用集』採択語彙との対照比較作業を通して第二次英学書ブーム期^(注1)対訳辞書研究

調査を引き続き行いたい。

1 調査対象資料

1-1 『新撰英和字典』の出版

成立・書誌的情報の大方は先行論文のご指摘に委ねるとして、国会図書館蔵本の奥付を今一度確認しておく、次のようにある。

明治十九年五月廿五日版權免許

同年六月（空字ママ）日出版

纂訳者 石川県平民 井波他次郎 石川県金沢区六枚町四十六番地

出版人 石川県平民 牧野一平 石川県金沢区小將町一番丁三番地ノ一

発売所 雲根堂 石川県金沢区尾張町八十四番地

経業堂印刷 石川県金沢区博労町七十八番地

明治19年は、『哲学字彙』II版及び『英語節用集』の刊行から刊行後2年を経た年にあたる。第二次英学書ブーム期において、この時期は先行辞書の模倣とされるものが比較的多く存する。それらの中、『新撰英和字典』もまた湯浅氏が検証されているように、先行学術用語集類諸種の利用を図るなどしながら編集を進めて行ったものであった。牧野一平は雲根堂と組んで、この時期他に『傍訓 軍歌』（明治19年刊）、『日本之美術』・『市制町村制並理由書』（同21年刊）、『讃酒歌百首』（同24年刊）といった洋学関連以外の出版物に関わっているが、洋学領域での活動は『新撰英和字典』に限られたものであった。

1-2 『新撰英和字典』の構成

ここでも概要の再確認にとどめることとするが、本資料の構成は次のような内容となっている。

表題 AN ENGLISH AND JAPANESE DICTIONARY CONTAINING
MAM(ママ)Y THOUSAND MODERN WORDS CONNECTED WITH
PHILOSOPHY, SCIENCE, AND ART, WITH AN APPENDIX, BY T. INAMI.
／英文序文「PREFACE」／邦文序文「新撰英和字典自序」／凡例表示
「新撰英和字典凡例」／本書中所用略語解／本編 1頁～766頁／不規則
動辞表／略語之解／貨幣度量衡表／象形記号之解

まず、「新撰英和字典自序」には次の記述が見られる。(引用中の下線等は稿者による。また漢字字体は適宜現行のものに改めた箇所がある。以下同様。)

東京大学外山正一先生嘗て我邦今日ノ急務ヲ論ジテ曰ク 其一ハ漢学ヲ
廃スルニアリ 其二ハ我邦人ヲシテ普通ニ西洋語ヲ学バシムルニアリト
而シテ就中英語ヲ学ブハ他国語ヲ学ブニ比シテ緊要ニシテ且ツ利益アリ
ト 是故ニ我邦人タルモノハ勉メテ今日普通ノ英語ニ通曉シ其書ヲ讀ミ
其智識ヲ受ケ之ヲ実践ニ応用セザルベカラズ 然リ而シテ外国語ヲ学ブ
ニハ其自国ト他国ノ合訳辞典ヲ出版セント欲ス 而シテ迨遑軋軋未ダ其
志ヲ得ザルナリ 一日余ヲ問フテ字典ヲ纂訳セント請フ 余亦嘗テ此ニ
意アリ 乃チ英人「ロブスチード氏」英華字典ヲ原本トシ 更ニ米人「ウ
エブストール」氏大字典其他五十余部ノ諸書ヲ涉獵シ 八月ノ初始メテ
稿ヲ起シ焚膏晷ニ繼ギ刻苦励精之ヲ勉ム 而シテ学友大木芝木両氏ノ昆
補浅少ニアラズ 訳成ルニ從フテ氷山鐵男三宅少太郎二君ノ校閲ヲ經 而
シテ後之ヲ刷印セシメ遂ニ十二月ノ中ニハ至リ其成功ヲ得タリ 抑此書
ノ語数五萬有余ニシテ其哲学科学ニ関係スル翻譯新語殆ンド壺萬語ヲ竄
入シタレバ 從來世ニ行ハルハ一般ノ英和字書類ニ比較スレバ或稍便利
ニシテ且精覈ナル者アラン 然レドモ宇宙ノ事物日ニ進化シ且理性ニ窮
極ナシ 寒陋ノ一書生ノ管見淺議ヲ以テ諸書ヲ網羅シ纂訳シタルモノナ
レバ其虚偽謬誤ノ必無ヲ保ズル能ハズ 唯少ラク初学生ノ為メニ纂訳ス
ルノミ 蓋シ西洋學術ノ駁入以來我国各府県中二三ヲ除ク外来多見ノ一
事ヲ挙行スルニ至ルハ満足ニ勝ヘザルナリ 然リト雖モ此書ハ数年ノ後
ニ至リ其時世ノ進歩ニ善ク応用スル事能ハザルベキハ必セリ 西儒曰ク
全時代中人ノ意志ガ漸次ニ増加進歩シ 而シテ思想ガ太陽ノ経曆ト共ニ
擴張スルナリト 余ハ此書ノ一日モ速ニ時世ニ応用スル事能ハザルニ至
ル事ヲ希望スルナリ

明治十八年十二月二日 纂訳者 井波他次郎識

外山正一の漢学排除・洋語推奨の言を引きながら、また洋学とりわけ英語学習の重要性の唱導に賛意を表明する。そのための英和対訳辞書であると出版企図を明確に示す。ロブシャイド英華字典を原本として利用したと編者が述べている点は、見出し立項の状況から否定的に見るべきことが今井氏の研究において確認されており、また「哲学科学ニ関係スル翻譯新語」を多く纂入している点も、主として『哲学字彙』を利用しているといったことが指摘

済みである。

「寒陋ノ一書生ノ管見淺議ヲ以テ諸書ヲ網羅シ纂訳シ」と記した箇所などは、『英語節用集』が編者緒言で「寒村僻邑ニ在リテ書籍師友ニ乏シキ人」の不便に思いを馳せ「寒村僻邑ノ諸子」のために刊行を思い立ったとしている点を想起させるが、『哲学字彙』を積極利用している点と合わせ同時期に同じような編集方針で成立している資料の存在は興味深く、本稿ではこうした点にも着目して検討を加えたいと考えている^(注2)。

次に、「新撰英和字典凡例」は以下のようである。

一 此書英人「ロブスチード」氏著英華字典に拠リテ稿ヲ起ス 然レドモ該書ハ元來清國人ノ為メニ編纂セシモノニ係リ其訳語中或ハ我邦人ノ為メニ極メテ適切ナラザルモノアリ 加之多ク近世ノ字ヲ載セズ 依テ千八百八十四年米人「ウエプストール」氏著大字典千八百七十年英人「ナッター」氏著英語字典二種千八百六十七年米人「ヘブルン」氏著英和語林集成千八百七十三年同氏和英英和字典千八百六十六年英人「ウエルレムスミス」氏増補英国言語講義及我國最近出版ノ字典訳語書等ノ諸書ヲ搜索シ訳語ヲ改良シ且又新語新義ヲ加フルコト頗ル多シ

一 我國維新以來今日ニ至リテ英和字典類ノ出版シテ世ニ行ハルハ者數十種ニ下ラズ 然レドモ大抵文明東漸ノ最初ニ発兌セシ者ヲ因循襲用シテ稍其体裁ヲ異ニスルニ過ギズ 其時勢ノ進歩ト共ニ大ニ訳語ノ改良シテ吾人ノ定語トナリタル者アルヲ一採取セズ 動モスレバ首尾前後同語ニ異訳ヲ下スモノ無キニアラズ 此レ初学ノ閱者茫乎トシテ適從スル所ヲ知ラザルニ苦シム所以ナリ 且又近時邦人理學的思想ノ発芽スルニ際シテ哲学科学ニ関スル語ヲ竄入シタルモノアルヲ見ズ 此レ深く惜ムベシトナス 故ニ余今此書ヲ纂訳スルニ際シ此事實ニ関シテハ就中極メテ深く注意スル所ナリ

一 此書哲学ニ関スル語凡三千宗教数学心理学論法文法政理学法理学理財学社会学ノ語三千物理学ノ語凡一千化学語凡一千生物学語（動物学植物学ヲ含有ス）凡一千其他地質学語鉱物学語梵語等凡殆ンド一萬語ヲ竄入ス 其訳語ハ悉我哲學者理學者著新訳諸書ト原書及ビ諸学会ノ議決ヲ經テ公布シタル訳語等ヲ参考シテ之ヲ定ム 而シテ其字義往々学科ニ從フテ異同アルガ故ニ括弧ヲ付シ以テ分別ス 其例左ノ如シ

(哲) (数) (宗) (心) (論) (文) (政) (法) (財) (社) (物) (化) (生)

一 原語中一字ニシテ其体形ヲ変ゼズ名辞ニモ或ハ形容辞等ニモ用フルヲ得ル語アリ 若シ名辞ノ訓訳ニ(哲)学又科学ノ括弧ヲ有スル時ハ其括弧ハ名辞ヲ除キテ他辞ニ関涉セザルモノトス

一 訳語中道義(徳)学此ノ如キアリ此レ道義学道德学ヲ略スルモノナリ

ロブシャイド辞書の訳語について、元々中国人のために中国語訳された漢字表記語を日本語にそのまま採り入れることの不適切さを説きながら、近代的な訳語をヘボン辞書等に取材して従来訳語を取り替えたり補ったりした事情が述べてある。また、具体的に多くの学問領域を挙げた上で専門術語の意義が学問別で異なることがあるとして、括弧付きの学問領域表示を丁寧に付したとしている。なお学問領域を列挙するにあたって、常に哲学が主導的優先的に遇せられるところは『哲学字彙』を積極利用した編集状況を物語るものと考えられる。

2 調査方法

今回の調査にあっても、『英語節用集』の二字漢字表記語を掲出する英語見出し項目477について、『新撰英和字典』における立項状況及び訳語掲出のありさまについて調査する。『新撰英和字典』で英語見出し語が立項されており且つ当該の掲出訳語があれば「○」、見出し語が立項されていても訳語の一致が見られなければ「△」、英語見出しの立項がなければ「-」として各項目の照応状況を検分しデータベースを作成した^(注3)。

3 『新撰英和字典』と周辺対訳辞書資料との訳語調査データ概観

これまでに蓄積した明治期対訳辞書資料に関する一連のデータと今回の『新撰英和字典』調査データとをあわせて、当代における訳語研究基盤データのさらなる拡充を図る^(注4)。

辞書資料には先行資料の利用継承といった要素が大きく関わるので、各辞書のありさまについてどこまでがその編者の成した行為結果であるのかは簡単に断ずることができないところもあるのだが、ひとまず表1を見たときに第二次英学書ブーム期において『新撰英和字典』[○型]の69.0%という数値

の高さは際立っている。太枠で囲んだ4資料が〔○型〕40%を超えるものであるが、3資料は40%代であったのに対して、70%近くに達しており抜きでたものとなっている。

一方で異なる訳語を掲出する〔△型〕について21.2%という数値の低さは、『英語節用集』と見出し語が共通して立項されれば同時に〔○型〕として訳語が共通するというを示しており、『英語節用集』と『新撰英和字典』の訳語世界が『哲学字彙』を仲介として重なりが大きなことが分かる。『哲学字彙』を多く利用した『英語節用集』との訳語照応に関して、やはり『哲学字彙』の活用を積極的に行った『新撰英和字典』の一致度合いが高いことがここで確認できたことは、当代における対訳辞書世界において大いに注目できる。

表1 『英語節用集』を基軸とし『新撰英和字典』を交えた英和辞書資料群の対照状況

		『英語節用集』所収部名	宗哲	学術	宗応	人官	政法	政応	堂処	年歴	計
『英語節用集』 明17		各所収部所属全項目数	135	61	284	160	123	93	40	18	914
		上記各項目数の全体内比率	14.8%	6.7%	31.1%	17.5%	13.5%	10.2%	4.4%	2.0%	100.0%
		各所収部内の二字漢字表記語数	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		上記二字漢字表記語の当該所収部内における比率	2.2%	13.1%	88.0%	40.6%	44.7%	77.4%	35.0%	55.6%	52.2%
『英和掌中字典』 明6		対応する〔○型〕項目数	1	5	65	15	6	2	3	3	100
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	62.5%	26.0%	23.1%	10.9%	2.8%	21.4%	30.0%	21.0%
		対応する〔△型〕項目数	0	3	141	35	27	54	8	4	275
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	37.5%	56.4%	53.8%	49.1%	75.0%	57.1%	40.0%	57.7%
		対応する〔一型〕項目数	2	0	44	15	22	16	3	3	102
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	0.0%	17.6%	23.1%	40.0%	22.2%	21.4%	30.0%	21.4%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
『写真石版附音補英和字典』 明18(復刻)		対応する〔○型〕項目数	0	6	84	25	18	17	6	3	159
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	75.0%	33.6%	38.5%	32.7%	23.6%	42.9%	30.0%	33.3%
		対応する〔△型〕項目数	1	2	134	29	20	46	7	6	245
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	25.0%	53.6%	44.6%	36.4%	63.9%	50.0%	60.0%	51.4%
		対応する〔一型〕項目数	2	0	32	11	17	9	1	1	73
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	0.0%	12.8%	16.9%	30.9%	12.5%	7.1%	10.0%	15.3%
	対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477	

第二次英学書ブーム期(2) A	「華英字典」明14	対応する〔○型〕項目数	1	5	35	13	5	6	2	2	69
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	62.5%	14.0%	20.0%	9.1%	8.3%	14.3%	20.0%	14.5%
		対応する〔△型〕項目数	0	2	151	37	21	40	9	4	264
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	25.0%	60.4%	56.9%	38.2%	55.6%	64.3%	40.0%	55.3%
		対応する〔一型〕項目数	2	1	64	15	29	26	3	4	144
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	12.5%	25.6%	23.1%	52.7%	36.1%	21.4%	40.0%	30.2%
対応する二字漢字表記語合計		3	8	250	65	55	72	14	10	477	
第二次英学書ブーム期(2) B i	「英和袖珍字彙」明17	対応する〔○型〕項目数	1	5	79	19	14	4	4	3	129
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	62.5%	31.6%	29.2%	25.5%	5.6%	28.6%	30.0%	27.0%
		対応する〔△型〕項目数	0	3	131	34	24	54	7	4	257
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	37.5%	52.4%	52.3%	43.6%	75.0%	50.0%	40.0%	53.9%
		対応する〔一型〕項目数	2	0	40	12	17	14	3	3	91
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	0.0%	16.0%	18.5%	30.9%	19.4%	21.4%	30.0%	19.1%
対応する二字漢字表記語合計		3	8	250	65	55	72	14	10	477	
第二次英学書ブーム期(2) B i	「学校用英和字典」明18	対応する〔○型〕項目数	1	7	93	18	19	23	8	4	173
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	87.5%	37.2%	27.7%	34.5%	31.9%	57.1%	40.0%	36.3%
		対応する〔△型〕項目数	1	1	119	37	14	40	5	3	220
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	12.5%	47.6%	56.9%	25.5%	55.6%	35.7%	30.0%	46.1%
		対応する〔一型〕項目数	1	0	38	10	22	9	1	3	84
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	0.0%	15.2%	15.4%	40.0%	12.5%	7.1%	30.0%	17.6%
対応する二字漢字表記語合計		3	8	250	65	55	72	14	10	477	
第二次英学書ブーム期(2) B i	「英和正辞典」明18	対応する〔○型〕項目数	0	6	83	19	13	19	5	3	148
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	75.0%	33.2%	29.2%	23.6%	26.4%	35.7%	30.0%	31.0%
		対応する〔△型〕項目数	0	2	122	31	19	36	6	4	220
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	25.0%	48.8%	47.7%	34.5%	50.0%	42.9%	40.0%	46.1%
		対応する〔一型〕項目数	3	0	45	15	23	17	3	3	109
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	18.0%	23.1%	41.8%	23.6%	21.4%	30.0%	22.9%
対応する二字漢字表記語合計		3	8	250	65	55	72	14	10	477	

第一次英学書ブーム期(2) B i	「新撰初学英和辞書」明18	対応する〔○型〕項目数	0	7	74	19	13	19	7	5	144
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	87.5%	29.6%	29.2%	23.6%	26.4%	50.0%	50.0%	30.2%
		対応する〔△型〕項目数	0	0	121	28	16	37	3	2	207
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	48.4%	43.1%	29.1%	51.4%	21.4%	20.0%	43.4%
		対応する〔一型〕項目数	3	1	55	18	26	16	4	3	126
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	12.5%	22.0%	27.7%	47.3%	22.2%	28.6%	30.0%	26.4%
	対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477	
	「訂訳大全英和辞書」明18	対応する〔○型〕項目数	0	7	133	20	11	29	6	5	211
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	87.5%	53.2%	30.8%	20.0%	40.3%	42.9%	50.0%	44.2%
		対応する〔△型〕項目数	0	1	93	33	21	33	6	4	191
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	12.5%	37.2%	50.8%	38.2%	45.8%	42.9%	40.0%	40.0%
		対応する〔一型〕項目数	3	0	24	12	23	10	2	1	75
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	9.6%	18.5%	41.8%	13.9%	14.3%	10.0%	15.7%
	対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477	
	「新撰英和字典」明19	対応する〔○型〕項目数	3	8	179	34	31	60	6	8	329
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.9%	2.4%	54.4%	10.3%	9.4%	18.2%	1.8%	2.4%	69.0%
		対応する〔△型〕項目数	0	0	56	25	7	6	5	2	101
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	22.4%	38.5%	12.7%	8.3%	35.7%	20.0%	21.2%
対応する〔一型〕項目数		0	0	15	6	17	6	3	0	47	
対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率		0.0%	0.0%	6.0%	9.2%	30.9%	8.3%	21.4%	0.0%	9.9%	
対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477		
第二次英学書ブーム期(2) B ii	「英和字海」明20	対応する〔○型〕項目数	0	5	122	24	14	22	6	3	196
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	62.5%	48.6%	36.9%	25.5%	30.6%	42.9%	30.0%	41.1%
		対応する〔△型〕項目数	0	3	96	29	18	39	5	5	195
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	37.5%	38.2%	44.6%	32.7%	54.2%	35.7%	50.0%	40.9%
		対応する〔一型〕項目数	2	0	33	12	23	11	3	2	86
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	13.1%	18.5%	41.8%	15.3%	21.4%	20.0%	18.0%
対応する二字漢字表記語合計	2	8	251	65	55	72	14	10	477		
第二次英学書ブーム期(2) B ii	「英和小学彙」明20	対応する〔○型〕項目数	0	7	73	20	12	20	6	6	144
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	87.5%	29.2%	30.8%	21.8%	27.8%	42.9%	60.0%	30.2%
		対応する〔△型〕項目数	0	0	121	27	17	37	4	2	208
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	48.4%	41.5%	30.9%	51.4%	28.6%	20.0%	43.6%
		対応する〔一型〕項目数	3	1	56	18	26	15	4	2	125
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	12.5%	22.4%	27.7%	47.3%	20.8%	28.6%	20.0%	26.2%
対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477		

第二次英学書ブーム期(2) B ii	「插画訂訳英和対訳新辞林」明20	対応する〔○型〕項目数	0	4	105	21	10	6	4	1	151
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	50.0%	42.0%	32.3%	18.2%	8.3%	28.6%	10.0%	31.7%
		対応する〔△型〕項目数	0	4	121	33	21	56	8	8	251
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	50.0%	48.4%	50.8%	38.2%	77.8%	57.1%	80.0%	52.6%
		対応する〔-型〕項目数	3	0	24	11	24	10	2	1	75
		対応する〔-型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	9.6%	16.9%	43.6%	13.9%	14.3%	10.0%	15.7%
	対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477	
	「新訳英和字彙」明21	対応する〔○型〕項目数	0	7	138	23	11	30	7	5	221
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	87.5%	55.2%	35.4%	20.0%	41.7%	50.0%	50.0%	46.3%
		対応する〔△型〕項目数	0	1	86	30	21	32	6	4	180
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	12.5%	34.4%	46.2%	38.2%	44.4%	42.9%	40.0%	37.7%
		対応する〔-型〕項目数	3	0	26	12	23	10	1	1	76
対応する〔-型〕の二字漢字表記語内比率		100.0%	0.0%	10.4%	18.5%	41.8%	13.9%	7.1%	10.0%	15.9%	
対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477		
明治20年代大型集成的対訳辞書(3)	「漢英対照いろは辞典」明21	対応する立項〔○型〕項目数	2	6	194	52	45	54	10	9	372
		対応する立項〔○型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	75.0%	77.6%	80.0%	81.8%	75.0%	71.4%	90.0%	78.0%
		対応する不立項〔-型〕項目数	1	2	56	13	10	18	4	1	105
		対応する不立項〔-型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	25.0%	22.4%	20.0%	18.2%	25.0%	28.6%	10.0%	22.0%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		対応する立項〔○型〕項目数	2	6	193	46	41	51	10	10	359
	「漢語英訳辞典」明22~25	対応する立項〔○型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	75.0%	77.2%	70.8%	74.5%	70.8%	71.4%	100.0%	75.3%
		対応する不立項〔-型〕項目数	1	2	57	19	14	21	4	0	118
		対応する不立項〔-型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	25.0%	22.8%	29.2%	25.5%	29.2%	28.6%	0.0%	24.7%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		対応する立項〔○型〕項目数	3	8	219	58	40	62	12	10	412
		対応する立項〔○型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	100.0%	87.6%	89.2%	72.7%	86.1%	85.7%	100.0%	86.4%
現代国語辞書(4)	「岩波国語辞書」7版(平24)	対応する不立項〔-型〕項目数	0	0	31	7	15	10	2	0	65
		対応する不立項〔-型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	12.4%	10.8%	27.3%	13.9%	14.3%	0.0%	13.6%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477

第二次英学書ブーム期の明治20年前後には他資料においても『哲学字彙』が提示した学術用語がそれなりに採用されていることが全体の趨勢としてうかがえるが、その中でも『新撰英和字典』編者が哲学を諸学問の先頭に立つものとして処遇する姿勢は『哲学字彙』積極利用と連なっていたことがさらに明確に見えてくる。こうした『新撰英和字典』の姿勢が、後代の対訳辞書世界においてどの程度受け継がれて行ったのか或いはそうでなかったのかは今後研究を進めて行く上で追究すべき課題としたい。

4 『新撰英和字典』調査対象訳語の明治20年代大型集成辞書・現代日用辞書収載状況

調査対象となった477項目の当該訳語語形は『新撰英和字典』での扱われ方によって〔○型〕〔△型〕〔-〕型と分けられているが、さらにそれぞれの訳語が、明治20年代の大型集成対訳辞書『漢語英訳辞典』と現代通用の国語辞書『岩波国語辞典第7版』での見出し語として立項されているかどうかを確認し、3資料の対応パターンによってグループ分けすると、表2のようになる。例えば〔○-○〕型は、『新撰英和字典』で〔○型〕：『漢語英訳辞典』で立項なし「-」：『岩波国語辞典第7版』で立項あり「○」というものである。

以下、各グループ別にデータを整理して示しながら検討を進めるが、ここでは〔○型〕における分析検討を主眼とする。〔△型〕・〔-〕型についてはグ

表2 『新撰英和字典』・『漢語英訳辞典』・『岩波国語辞典第7版』の対照状況

	「英語節用集」 所収部名	宗哲	学術	宗応	人官	政法	政応	堂処	年歴	各型 小計	各型内構成 比率(%)	全体内構成 比率(%)
『新撰英和字典』で〔○型〕 訳語掲出型	〔○○○〕型	2	6	135	26	24	42	6	8	249	75.7%	52.2%
	同上型内比率(%)	0.8%	2.4%	54.2%	10.4%	9.6%	16.9%	2.4%	3.2%			
	〔○○-〕型	0	0	7	0	3	1	0	0	11	3.3%	2.3%
	同上型内比率(%)	0.0%	0.0%	63.6%	0.0%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%			
	〔○-○〕型	1	2	26	6	2	11	0	0	48	14.6%	10.1%
	同上型内比率(%)	2.1%	4.2%	54.2%	12.5%	4.2%	22.9%	0.0%	0.0%			
	〔○--〕型	0	0	11	2	2	6	0	0	21	6.4%	4.4%
	同上型内比率(%)	0.0%	0.0%	52.4%	9.5%	9.5%	28.6%	0.0%	0.0%			
	〔○〕型小計	3	8	179	34	31	60	6	8	329	100.0%	69.0%
	同上型内比率(%)	0.9%	2.4%	54.4%	10.3%	9.4%	18.2%	1.8%	2.4%			

『新撰英和字彙』 で(△)型 (別語掲出型)	〔△○○〕型	0	0	34	16	7	2	2	2	63	62.4%	13.2%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	54.0%	25.4%	11.1%	3.2%	3.2%	3.2%			
	〔△○-〕型	0	0	3	0	0	2	0	0	5	5.0%	1.0%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%			
	〔△-○〕型	0	0	10	4	0	2	1	0	17	16.8%	3.6%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	58.8%	23.5%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%			
	〔△--〕型	0	0	9	5	0	0	2	0	16	15.8%	3.4%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	56.3%	31.3%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%			
	〔△〕型小計	0	0	56	25	7	6	5	2	101	100.0%	21.2%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	55.4%	24.8%	6.9%	5.9%	5.0%	2.0%			
『新撰英和字彙』 で(□)型 (不立項型)	〔-○○〕型	0	0	13	4	7	4	2	0	30	63.8%	6.3%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	43.3%	13.3%	23.3%	13.3%	6.7%	0.0%			
	〔-○-〕型	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2.1%	0.2%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	〔--○〕型	0	0	1	2	0	1	1	0	5	10.6%	1.0%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%			
	〔---〕型	0	0	0	0	10	1	0	0	11	23.4%	2.3%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%			
	〔-〕型小計	0	0	15	6	17	6	3	0	47	100.0%	9.9%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	31.9%	12.8%	36.2%	12.8%	6.4%	0.0%			
全体合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477	-	100.0%	

ループ分けしたリストを掲出するにとどめ、今後の研究に向けたデータの蓄積を図るものとして示しておきたい。

4-1 〔○〕型

4-1-1 〔○○○〕型

このグループは明治20年代半ばの大型集成対訳辞書『漢語英訳辞典』にも現代通用の『岩波国語辞典第7版』にも見出し語として立項されている訳語群である。

『新撰英和字典』においては、先に「凡例」中に挙げられていたように()付きで当該語の学問領域を表示する方式が採られている。また以下で示すように、()の中に学問領域の略語を示すだけでなく、当該語に関する註解を付す場合もある。この括弧付き学問領域表示を含むものについては、その訳語記述の全体を掲出順もそのままに示して行くことにする。そこに見られる言語情報が該辞書の編集作業の実態、訳語採集にあたっての編者の言語意識等を検分する上で非常に重要なものと考えからである。なお、『新撰英和字

典』では『哲学字彙』を利用した訳語に () 付きで学問領域を示すことが基本である。『哲学字彙』で学問領域が表示されている場合はそのまま利用し、『哲学字彙』で無表示の扱いのものは『新撰英和字典』で(哲)と表示する方式が、原則的に採られる。

掲出要領は、「[当該訳語 / 当該英語見出し () 付き記述が含まれる場合の『新撰英和字典』訳語記述全体] ※なお、() 付き記述がない場合は訳語記述を省略」とする。判読不明字は■で示す。以下、『英語節用集』の収載部門別に項目を挙げて詳しく見て行く。下線を付したものは『哲学字彙』Ⅱ版の記述と重なる訳語であり、括弧付き表示が存せず訳語記述を省略しているもので通常表示で一致訳語が示してある場合には「当該訳語」箇所に下線を付している。『哲学字彙』Ⅰ版において英語見出しが立てられていなかったり、掲出訳語がⅡ版と異なる内容の場合もあるが、それについては適宜に取り上げることとする。

まず【宗哲】部門では、次のようになっている。

【宗哲】[仏教/Buddhism (哲) 仏教 釈教] [神道/Shintoism (哲) 神道]

他の対訳辞書資料では Buddhism や Shintoism のような宗教関連用語を採用しないことも比較的多く、表1で太枠で囲んで示した『英語節用集』訳語の採用率が高かった『訂訳大全英和辞書』『英和字海』『新訳英和字彙』においてはいずれも両英語語形は見出しに立てられてはいない。これまで調査した対訳辞書資料の中では、『英和袖珍』(明治17年刊)『学校用英和字典』(明治18年刊)において Buddhism が採用されているだけで、Shintoism は見られないのである。『哲学字彙』の利用を検討する際には、この宗教用語項目の扱いは指標の一つとして考え得るのではないか。なお、「釈教」は『哲学字彙』に見られない語であり、『新撰英和字典』での掲出配列方式では概ね『哲学字彙』利用語形を () 付きで示すものは訳語列の後端に置かれることから、編集作業の終わり際に追加したかのような印象を与える。『新撰英和字典』の訳語配列はこうした作業手順を窺う上でも興味深いものである。

次いで【学術】部門を見ると、次のようであった。

【学術】[科学/Science 学 学問 専門学 芸 知識 智慧 (哲) 科学
理学] [哲学/Philosophy ← Phylosophy * 知識ヲ愛スル義 理学 理科
理論 哲学 (此学ハ諸科学ノ資給スル材料ヲ統合シ以テ天地ノ流行

スル間ニ自ラ変化セザルモノアルヲ尋究スルノ学ナリ即チ万化ノ由リテ起ル本源ヲ稽查スルノ学ナリ) [化学/Chemistry ← Chemistry*] [数学/Mathematics] [語学/Philology ← Phylogology*] [文学/Literature]

『新撰英和字典』の Philosophy 項目の訳語「哲学」に長文の註解が付されているのは、辞書中でも格別の配慮がなされたことが見て取れる。『哲学字彙』を重要視する編者の方針が明確に示された記述である。Science 項では(哲)に挙げられた2語の順番は、『哲学字彙』II版でもともと「理学 科学」と逆になっていた。今回の調査で検討した範囲では、基本的に『哲学字彙』利用訳語は『哲学字彙』の掲出順に並んでいることが多いのであるが、配列が変更されている場合もある。そこには当然各訳語に対する編者の判断が存しているわけであるが、今回は詳細に検討する余裕がなかった故、今後の課題としたい。Chemistry・Mathematics 項では、それぞれ『哲学字彙』II版で「化学」・「数学」が挙げられているが、『新撰英和字典』では当該訳語に(哲)の表示をつけてなく、先に【宗哲】で挙げた「(哲)神道」の一語掲出時でも括弧付き表示をし他扱いとは方針におれが見られる。Philology には『哲学字彙』II版の「原語学」ではなく「語学」を挙げており、訳語の取捨選択がなされている。

【宗応】部門に属する項目は総計135に上り、全体で最も多くなっている。

【宗応】[宗教/Religion 法教 教門 (哲) 宗教] [天堂/Heaven ①天 蒼天 天帝 大幸 (哲) 上天 天堂 太虚 彼蒼] [地獄/Hell 賭房 布碎取捨場 (哲) 地獄 陰府] [偶像/Idol] [恭敬/Worship 貴重 尊敬 祈念 貴人ノ尊称 (哲) 礼拝 欽崇 敬拝 恭敬] [私慾/Selfishness 貪欲 利己 (哲) 私慾] [真実/Real 実ノ 真ノ 確実ナル (哲) 真実ノ] [誘惑/Temptation 試煉 探試 (哲) 誘惑] [社会/Society ①会 会社 会院 連衆 交際 合同 世態 社友 (哲) 社会] [正義/Justice ①公道 理 公義 公平 相当ノ罰 法官 (哲) 正義] [克己/Self-denial 自忍 (哲) 克己] [慈悲/Grace ①恩典 神恩 徳 懇親 温雅 美麗 食事前後ノ礼拝 尊称 音ノ節 (哲) 恩恵 寵愛 慈悲 厚床] [靈魂/Soul 精神 精気 魂魄 血気 膽略 人 (哲) 靈魂] [感覺/Sensation 感情 知覚 (哲) 感覺] [原因/Cause 所以 道理 事故 詞訟 因縁 (哲) 原因 縁故 本源 元由] [結果/Effect 功績 成就

作用 關係 利益 意思 事實 (哲)結果 応報 効驗 果報] [道德 /Morality 道德 五常 人道 礼式 善道 (哲)道義 行狀] [觀念 /Idea 意 思想 意見 想像 (哲)觀念 理想] [虛無 /Void 空処 空虛 (哲)清空 虛無 冲虚] [憂愁 /Sorrow 悲哀 悲歎 (哲)憂愁] [真理 /Truth 信義 信実 信任 事實 (哲)真理 真実] [感応 /Feeling ① 知覚 感官 (五官ノ一) 感動 慈心 (哲)感応] [術数 /Policy ① 政略 治法 計略 詭計 管理法 保險証書 警保 (哲)政法 權道 術数] [氣力 /Vigour 勤勉 力量 (哲)氣力] [方便 /Mean 方略 歲入 所得 家産 (哲)法子 方便 津梁 筌蹄 階梯 手段 方法 (数)中律] [禁止 /Confinement] [性質 /Character 文字 記号 筆法 名望 資格 見込 氣力 人物 棲子 原由 表題 (哲)品格 性質 行狀 (物) 音色] [偏執 /Bias 偏重 帰行 嗜好 (哲)偏執] [異説 /Dissent] [金言 /Aphorism 法則 要語 諺語 (教戒ノ語) (哲)金言] [讚美 /Approbation 合意 許可 承諾 (哲)褒揚 讚美] [智慧 /Wisdom 才智 聡朋 (ママ) (哲)智慧] [議論 /Debate 議論 商量 (哲)討論] [不朽 /Perpetuity 永久 永在 (哲)永遠 不朽] [寓言 /Phenakism (哲)寓言] [憐愍 /Pity 悲哀 難渋 (哲)憐憫 慈悲] [題目 /Thesis 説 趣意 処置 条理 (哲)題目] [教会 /Congregation] [熱心 /Zeal 奮発 氣象 (哲)熱心] [名辞 /Term 限界 避言 轉變 躲閃 限界 約束 期限 時期 学期 解明 語 名 有様 (数)項 率 (論)名 辞 (政)開期] [名目 /Name 名 名譽 名代 名詞 (哲)名目] [心痛 /Pang 苦痛 (哲)心痛] [不幸 /Unfortunate 不運ナル 薄命ナル 禍ノ (哲)不幸ノ] [利用 /Utility 裨益 利益 (哲)功利 (財)利用] [奇遇 /Accident 出来事 意外ノ事 不慮ノ危害 禍災 過失 詞ノ変例 物質 (論)偶有性 (哲)奇遇 機運 变故] [自殺 /Suicide 自害 自殺人 (哲)自殺] [瑞相 /Lucky-omen ← Luchy-omen *] [門派 /System ← Sistem * 法 組成 体裁 合体 組成 (哲)法式 系統 系 門派 教法 制度 經紀 体系 教系] [浄土 /Purgatory] [空虛 /Vacuum 空虛 (物)真空 (哲)空虛] [究竟 /Ultimate ← Ultimote * 終ノ 末ノ 最後ノ 極遠ノ 結着ノ (哲)究竟ノ] [真如 /Reality 真実 事實 (法)実産 (哲)実体 真如] [上天 /Heaven ②天 蒼天 天帝 大幸 (哲)上天 天堂 太虚 彼蒼] [洗礼 /Baptism 沐浴 (宗)洗

礼] [慈悲/Grace ②恩典 神恩 徳 懇親 温雅 美麗 食事前後ノ礼 拜 尊称 音ノ節 (哲) 恩恵 寵愛 慈悲 厚床] [清浄/Purity 精煉 誠実 貞実 無罪 (哲) 精醇 清浄 純粋] [解釈/Explanation 解明 講義 (哲) 解釈 註説] [神聖/Holiness 純心 (宗) 聖教主(羅馬法王ノ尊称) (哲) 靈異 神聖] [絶対/Absolute 完キ 限ナキ 定レル 随意ナル 自主ノ 純ノ 真純ノ (政) 専制ノ (哲) 絶対ノ 純全ノ 全齊ノ] [発明/Invention 創始 仮作 工夫 創製物 (哲) 発明 剽削] [改正/Meliority] [正直/Justness ← Jastness*] [民情/Nationality ①国民性 国風 (哲) 民情 国体] [注意/Attention 謹慎 留心 用心 丁寧 (哲) 注意] [寺領/Parish] [説法/Preaching] [魔法/Incantation] [天命/Providence 命 予防 遠慮 先見 (哲) 天命 天道] [高言/Rant] [願望/Requisition] [平等/Equality ← Eequality* 同等 同級 同様 (哲) 平等] [帰服/Obedience (哲) 従順 帰服 遵奉] [狡猾/Cunning] [独立/Independence] [改宗/Convert] [便利/Convenient] [会議/Convention ①会議 条約 (法) 公会] [永続/Continued] [争論/Contention] [嫉妬/Jealousy 猜忌 恚気 (哲) 嫉妬 娼嫉 妬悍] [落涙/Shed-tear] [裁判/Judicature] [侵入/Invasion ← Invasion*] [一般/General 将官 総官 僧長 総体 通計 大略 (哲) 普通 梗概 一般 大抵 全関] [衰微/Decline 衰弱 凋落 傾倒 荒墜 (哲) 萎蕪 衰微] [和睦/Concord] [結合/Coalescence] [音楽/Music] [編輯/Compilation] [行状/Comportment] [内部/Interior] [野蛮/Barbaric] [遍歴/Extravagated] [公会/Parliament ← Partiamment* 公会 国会 巴力門(英国議員ノ大会) ■名] [生活/Life] [骸骨/Skeleton] [名誉/Honor 官職 礼儀 徳 恩恵 裝飾 尊敬 面目 豪気 貞節 (哲) 栄光 名誉 体面] [関係/Consequence 関係 感動 緊要 効験 結局 利益 (哲) 干係] [戒心/Caution] [旅行/Travel] [臆説/Hypothetical] [教育/Education 養育 教訓 (哲) 教育] [比較/Compare] [妄想/Fanciful] [石碑/Monument ← Manumend*] [遺物/Relics] [習慣/Custom ①常例 常客 (哲) 風俗 習慣 (財) 関税] [攻撃/Attack] [餓死/Starve ← Staved*] [堪忍/Abstain] [抵抗/Resist] [驕慢/Self-conceit 驕慢 自慢 (哲) 自尊] [独学/Self-educated] [戦争/Warfare] [文明/Civilization 教化スル事 風化 文明 (哲) 開化] [自由/Liberty]

[才智/Intelligence 才智 聡明 良知 通報 通曉 新聞 報告 通信 (哲) 睿智 虚靈] [無形/Spiritual] [法則/Method 法 順序 方略 (哲) 方法] [道理/Reason 条理 理趣 道 縁故 正直 才智 正理 公平 (哲) 道理 理性] [一擧/Insurrection] [世界/World 世 地球 万国 大国 大地 天 天下 現世 浮世 世事 世人 万民 万物 風俗 活計 広闊 (哲) 世界 寰宇 乾坤 人間] [愛情/Inclination 愛情 偏愛 斜度 倚度 (哲) 偏向 性癖 意奴] [混沌/Chaos 開闢ノ世 (哲) 混沌 鴻荒] [死骸/Corpse ← Corse*] [名声/Reputation 名誉 (哲) 善聞 名声] [風俗/Manner 様子 式 法 風俗 容貌 法方 種類 (哲) 態度 容] [全能/Almighty ← Almight* 天帝 自在ノカヲ有スル 上帝 (哲) 全能] [天使/Angel 英国ノ古金貨 天人 悪魔 天狗 (哲) 天使] [創造/Creation 世界ノ創造 製造 設立 生産 萬物 宇宙 (哲) 創造] [情緒/Emotion 動心 感動 (哲) 情緒] [異教/Gentilism 偶像礼拝 (哲) 異教] [正教/Orthodox 法教ヲ固ク信ズル (宗) 正教ノ] [天賦/Implanted (哲) 天賦] [有情/Sentient 感覺アル (哲) 有情ノ 有情]

Worship 項については、『哲学字彙』でI版「礼拝 欽崇 恭敬」の3語にII版ではさらに「敬拝」が追加されている状況を承け、II版記述「礼拝 欽崇 敬拝 恭敬」を配列順序もそのままに4語を(哲)注記の下にならべており、II版利用が基本であった編集作業の実情が分かる。II版重点採用の方針は、Debate 項・Parliament 項ともに『哲学字彙』I版で項目なしであったが、II版で「討論」・「国会 巴力門」の訳語が示されたものを掲出していることからもうかがえる。このことは、Term 項・Absolute 項において、『哲学字彙』I版「名辞(論)」にII版で追加された訳語「開期(政)」を合わせて採用し、同じくI版「絶対【2行割注】純全 専制(政)」にII版で追加された「全齊」を含めて記述することにも表れている。

Name 項において、『哲学字彙』I・II版で「名 名目」と挙げられた2語の扱いが異なる点は興味深い。「名」は通常訳語扱いとされ「名目」は括弧付き表示で学術専門用語として留意すべきことが編者に意識されたものと考えられる。Decline 項においても訳語の括弧付き表示の扱いは単純ではなく、『哲学字彙』I・II版ともに「萎蕤 衰微 凋落 傾倒 荒墜」と挙げる訳語について、『新撰英和字典』は「凋落 傾倒 荒墜」を表示抜きで並べ「萎蕤 衰

微」を(哲)表示で掲出する。「荒墜」語形が学術専門用語として扱い難い面があることを示唆するようでもあるが、これが「凋落 傾倒」さらには「衰弱」も含めた非括弧付き訳語と同じ扱いで並べられることには些か不分明な感も残る。今後の課題としたい。

System 項の記述は『哲学字彙』Ⅱ版「系 統系 門派 教法 制度 法式 經紀 体系 教系」(Ⅰ版は「体系 教系」を欠く)を利用したものであるが、字順転倒語形「統系」を『新撰英和字典』では現行通用語形「系統」に差し替えて掲載する。比較的の字順転倒語形も見出しに収めることが多い『漢語英訳辞典』においても「系統」語形は採用しているものの「統系」語形は見られない。『日本国語大辞典 第二版』には『哲学字彙』Ⅱ版の記述内容を掲出しているだけで当代他資料における出現状況について詳らかではなく、今後当代の「統系」がどのように動いていたかを精査する必要がある^(註5)。

Chaos 項は、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版ともに「混沌 溟滓 鴻荒」を挙げるが『新撰英和字典』は「溟滓」を不採用としている。『附音插図英和字彙』は「混沌 紛乱 混雑」を挙げるが、再版の『増補訂正英和字彙』は「渾沌 溟滓 鴻荒 紛乱 混雑」と「コントン」語形の漢字取り替えはあるが「溟滓 鴻荒」増補とを行っており、『哲学字彙』と訳語の共有がなされていることがうかがえる。『新撰英和字典』編者が『哲学字彙』Ⅱ版と『増補訂正英和字彙』を並べ見、項目記述を構成して行く作業の中で、結局通常記述において「開闢ノ世」という句形式による説明とすることを決断し、専門用語として(哲)表示下に「混沌 鴻荒」を並べ「溟滓」を斥けるといった仕上げを行っているのは、Chaos 訳出の当代状況また関わる各訳語形に対する扱いを観察する上で非常に興味深いものがある。『和英語林集成』英和の部はⅠ版「doro-umi」の和語を挙げ、Ⅱ・Ⅲ版で「Kon-ton」を挙げており漢語「コントン」を重視しているが、漢字表記については和英の部Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ版で一貫して「渾沌」とあり『増補訂正英和字彙』の漢字変更の背景として考えるべき材料を提供するところとなっている。

【人官】部門は次のとおりである。

【人官】[隠者/Eremit 遁世者 (哲) 隠者 逸士] [信者/Believer] [化身/Avatar (宗) 化身 (哲) 化生 (阿跋多羅) (印度哲学ノ語)] [商人/Merchant] [貴族/Noble-man] [国民/Nation 人民 (哲) 国 国民] [兵卒/Soldier] [奴隸/Slave] [囚人/Prisoner] [巡査/Police-man]

[老人/Oldman] [子孫/Offspring 子 後嗣 (哲) 子孫 苗裔 后胄]
 [学士/Scientist 理学者 (哲) 理学士] [元祖/Originator] [医者/
 Physician ①] [両親/Parent] [兄弟/Brother] [姉妹/Sister] [叔父/
 Uncle] [女王/Queen ← Queen*] [宰相/Prime Minister ← Prim
 Minister* 大臣 宰相] [盲目/Blind] [博士/Professor] [悪漢/
 Wretch] [神仙/Genii (哲) 神仙] [主宰/Ruler 管轄者 定木 (哲)
主宰 元首]

Avatar 項の記述は、『哲学字彙』II版の本編部13頁に「化身(宗)」また梵
 漢対訳仏法語彙部148頁に「(阿跋多羅) 化生」とあるのを承けてのものである。
 Slave 項は訳語列を示すと「奴僕 売奴 奴隸 賤者」となっており、『哲
 学字彙』II版に「奴隸」が挙げられているが括弧付き表示を外した扱いとなっ
 ている。Prime Minister 項は『哲学字彙』I版には英語項目自体が見られな
 いがII版で「大臣 宰相」の訳語を付して立項されているのを承けているが、
 括弧付き表示がやはり外してある。

Scientist 項は『哲学字彙』I版「学士」II版「理学士」であり、II版訳語
 を採用している。

【政法】部門を挙げる。

【政法】[国家/State 形状 形情 榮耀 品級 高位 国 大臣 (哲) 国
 家 (物) 有様] [権利/Right 道 正經 道理 当然 公平 条理 真
 実 正義 権勢 所有 特許 右方 応当 (哲) 權利 公道 通義]
 [民法/Civil-law (法) 民法] [刑法/Criminal-law (法) 刑法] [平安/
 Peace ①太平 静謐 平和 和親 (哲) 平安 寧靖 雍和] [政府/
 Government 政法 管轄 政權 官 国家 治法 (政) 政治 政府]
 [租税/Taxation 賦税 餉 (財) 租税] [革命/Revolution ②回転 循環
 動乱 民変 (哲) 革命 轉覆] [王国/Kingdom] [帝国/Empire]
 [市区/Municipality (政) 市区] [民情/Nationality ②国 民性 国風
 (哲) 民情 国体] [国政/Polity 政度 国法 政体 (哲) 国政 国体]
 [憲法/Consti-tution 本質 性質 政体 国法 国政 律例 (化) 構造
 (政) 憲法] [管轄/Govern] [内閣/Cabinet] [参議/Privy councillor]
 [法律/Law ②法理 律令 制度 禁令 規条 格令 定則 詞訟 (哲)
法 法律 規制 条例 理法 格率] [除籍/Denationalization (法) 除
 籍] [家政/Economics 経済学 (哲) 家政 理財学] [法式/Modus

(哲) 法式] [誤用/Misuse 妄用 薄待 虐使 (哲) 誤用] [商議/Negotiation 議定 取引 (法) 商議] [命令/Order ②順序 次第 等級 品階 齊声 規則 章程 部類 注文 (哲) 秩序 倫次 品級 命令 倫紀 (生) 科 目]

Right 項について、『哲学字彙』I版・II版はともに同語を並べて2項目に分けて表示している。すなわち、次の体裁である。

Right 正経 応当 公平 合理

Right 権利 公道 通義

これを『新撰英和字典』は第一項目から(哲)表示なしに「正経 応当 公平」3語をほぐした形で配列して採用、「合理」については不採用の扱いを取っている。その上で第二項目を(哲)表示で配列もそのままに3語を並べている。積極利用が先行研究で指摘されている柴田昌吉・子安峻著『増補訂正英和字彙』(明治15年刊)ではRight名詞項目に「道 公道 道理 正経 応当 当然 公平 真実 合理 条理 通義 正義 権義 権利 所有 分所 応得 特許 権勢 右方」の訳語群を掲出しており、こちらにも「合理」が挙げられているが、それでも該語を訳語列に入れなかった『新撰英和字典』編者の判断については、例えば『和英語林集成』英和の部I・II・III版ともにRight対訳語列に「合理」は挙げられないといった周辺情報をさらに収集し交えながら検討する必要がある。

Polity 項では『哲学字彙』I版「国政」・II版「国政 国体」とII版で追加された「国体」を、Order 項では『哲学字彙』I版「秩序 倫次 品級 命令」・II版「秩序 倫次 品級 命令 倫紀」の状況下でII版追加訳語「倫紀」を、それぞれ(哲)注記訳語中に丁寧に配しており、ここでも『哲学字彙』II版重視の編集作業のありさまが見て取れる。

【政応】部門については次のとおり。

【政応】[徒党/Party ②党類 同夥 对手 社中 方 一隊ノ兵 (哲) 徒党] [同盟/Alliance 親族 結親 聯盟 盟約書 同盟 (法) 会盟] [補任/Appoint-ment 命令 給金 約定 決定 処分 設立 官職 恩典 器具 (政) 補任] [結合/Combination 連合 会盟 結党 集合 合同 抱合 (哲) 結合] [約定/Compact 合同 契約〔ケイヤク〕 (哲) 約定] [完全/Complete 充分ナル 全キ 補足ノ 全備ノ (哲) 完全ノ] [連絡/Connection 連合 附合 交通 一致 交結 附属 通信 通商 親族

結親 關係 和親 (哲) 連絡 [允許/Consent 同意 一致 応諾 (法) 允許] [抑制/Control 權勢 支配 管轄 指揮 禁制 (哲) 抑制 拘束] [公会/Convention ②會議 条約 (法) 公会] [節操/Contenance 節制 守節 (哲) 節操] [勢力/Energy 威勢 出精 勉強 (哲) 元氣 勢力 氣力 (物) 勢] [独断/Dogma 確論 教条 (哲) 独断] [結局/Goal 目的 記号 競馬ノ勝負ヲ定ル標木 (哲) 結局] [無罪/Innocence 無辜 無害 清白 (哲) 無罪 清浄] [教唆/Instigation 挑撥 (哲) 煽動 慫恿 教唆 鼓舞] [正義/Justice ②公道 理 公義 公平 相当ノ罰 法官 (哲) 正義] [義氣/Patriotism 忠心 愛国心 (哲) 義氣 憂国心] [反逆/Rebellion 反乱 (哲) 不軌 反逆 謀叛] [服從/Homage 忠義 (哲) 服從 尊敬] [交誼/Friendship 親睦 懇切 友情 交際 (哲) 交誼 友道] [平安/Peace ②太平 静謐 平和 和親 (哲) 平安 寧靖 雍和] [償還/Payment 払 報酬 出金 支出 (財) 償還] [堅忍/Perseverance 固執 (哲) 堅忍] [口実/Pretension 虚託 欺詐 需要 (哲) 口実] [主義/Principle 根源 理由 原由 主意 本行 由縁 教説 確言 元素 道理 (哲) 道 原理 主義] [特許/Privilege ← Privilege * 特恩 自由 權利 (法) 特許 特権] [問題/Problem 題 謎 (哲) 問題] [未決/Problematic] [遁辞/Quibble 戲言 曲言 詭言 (哲) 遁辞] [理由/Rationale ← Rational * 理論 弁論 (哲) 理由] [贅言/Redundancy 余計 過多 (哲) 過分 (論) 贅言] [駁撃/Refutation 論破 弁駁 不諾 (哲) 弁破 駁撃] [条例/Regulation ② (哲) 法度 条例 章程 修理 治厘 整理] [會員/Member ②句 段 章節 肢 (哲) 會員] [隱遁/Seclusion 逐出 絶交 (哲) 沈冥 隱遁 屏石] [撰択/Selection 揀選 択出 選択物 択選 (哲) 撰択 淘汰] [規則/Rule 管轄 定木 条例 (哲) 規則 法式 制度 順序] [定論/Theorem 理 法式 根理 設詞 (数) ■ 定論] [理論/Theory 説 学 法方 推理 (哲) 理論] [許容/Toleration 堪忍 免許 容忍 黙許 (哲) 許容 寬許] [弁理/Transaction 管理 事務 処置 処分 取引 (哲) 弁理]

Alliance 項について、『哲学字彙』ではI版「同盟(法)」に対して同II版「同盟(法) 会盟」となっていて、『新撰英和字典』は「同盟」を括弧付き注記なしの通常訳語扱いとし「会盟」を(哲)注記とするなど異なる処理をしている。『増補訂正英和字典』においては「聯盟 会盟 結親 同盟 盟約

書」と両語をともに訳語列中に見られるが、掲出順で「会盟」が先んじて挙げられることになっている。しかしながら、『和英語林集成』英和の部はⅠ版「Chinami Jōyaku yoszga yukari majiwari」、Ⅱ版「Chinami chigiri yen yukari」と両語形ともに見られないものの、『新撰英和字典』刊行後のⅢ版において「Chinami chigiri en yukari dōmei」と「同盟」が追加収録されている。

こうした訳語世界の動向の中で、「会盟」は『新撰英和字典』編者が自序に言うところの努めて収集し多く辞書中に竄入することとなった「哲学科学ニ関係スル翻訳新語」に該当するものとして、ことさらに学問領域表示を括弧付きで与えることを妥当と考える一方で、「同盟」に関しては凡例にある「時勢ノ進歩ト共ニ大ニ訳語ノ改良シテ吾人ノ定語トナリタル者」を「初学ノ閲者」に配慮するという方針を実行に移したものであったと考えることもできようか。これらもまた、今後訳語研究のデータを蓄積する中で明らかにして行くべき課題の一である。

似たような事情が Problematic 項についても考えられよう。『哲学字彙』Ⅰ版「遁辞」、Ⅱ版「遁辞 曲言」となっている訳語掲出を承けて、「遁辞」は括弧付き学術専門用語の扱いとなり、「曲言」は通常表示の訳語列の中へと配置される。やはり両語の普及具合や初学の読者の理解見込みなどを編者が勘案した上での対応の分かれと見ることができる。

Privilege 項は、『哲学字彙』Ⅰ版「特許(法)」、Ⅱ版で「特権(法)」とあったものが、両訳語を並べて示したものとなっている。『増補訂正英和字彙』において名詞項で「特許 特恩 自由 特権 権利」と両語形を含んだ訳語列が挙げられているが、動詞項で「特許ヲ与フル 特権ヲ賜フ」とこの2語が並び立つ記述となっていることが、『新撰英和字典』の編集作業に反映したものかも知れない。訳語の品詞性において動詞名詞で共通する漢字表記語を採用することは辞書編集上の合理であるとともに、読者の漢語使用においても経済的で利便性が高い。編者はそうした漢語の品詞性について、「原語中一字ニシテ其体形ヲ変ゼズ名辞ニモ或ハ形容辞等ニモ用フルヲ得ル語アリ」と凡例で認識を示している。また Privilege については、『和英語林集成』英和の部においてⅠ版では英語見出し項目がないのであるが、Ⅱ版で「Ki surukoto mochimaye syjime」だった訳語にⅢ版で「tokken tokkyo kenri」と追加される。これも『新撰英和字典』が上記のように『哲学字彙』『増補訂正英和字彙』を承けての訳語掲出行っていることを視野に入れて、その訳語掲出作業

を検討する必要があることを示唆するところでもある。

Member 項は、『哲学字彙』I・II版ともに「肢体 会員(政)」とある記述のうち「肢体」を不採用とする代わりに「肢」を通常表示の訳語として掲出した形である。『増補訂正英和字彙』が「肢 句 章 段 節 会員」の訳語列を示し一字漢語「肢」を筆頭に挙げていることと、項中用例句として「The four members of the body. 四肢」を挙げていることが、『哲学字彙』の記述にもかかわらず単語 Member の訳語として「肢体」を挙げなかった背景と考えることもできようか。『和英語林集成』英和の部ではI・II・III版ともに訳語列は「Yeda hito mono」の3語を挙げるが、用例としてII・III版で「The five — . go tai」を示しており、Member が人間身体に関わる場合には四肢、五体といった数詞と連続する句形をこの英単語の用法理解における一つの定型と捉えることが、英語学習上の良策と考える意識が当時存した可能性もないではない。これらもまた「初学ノ闕者」に向けた辞書編者の配慮と見る余地はあるものと考えたい。

Seclusion 項は、『哲学字彙』I版「隠遁 沈冥【2行割注】」、II版で「隠遁 沈冥【2行割注】 屏石」となっていてII版の追加項目「屏石」を丁寧に拾った形であり、Selection 項は『哲学字彙』I版見出し項目なし、II版「撰択 淘汰(生)」ということで新規立項に伴うII版訳語の採用掲出ということになっており、ここにも『哲学字彙』II版積極活用の姿勢が現れている。

【堂処】については次のとおりであり、括弧付き表示は2項目にとどまり4項目では学問領域表示がない。

【堂処】[鐘楼/Belfry] [首府/Capital 柱頭 京城 首府 体面 声価 頭文字 (財) 資本] [宮殿/Palace] [関税/Custom ②常例 常客 (哲) 風俗 習慣 (財) 関税] [銀行/Bank] [病院/Hospital]

【年歴】は以下のとおりであった。

【年歴】[年代/Age] [歴史/History 記録 伝 (哲) 歴史] [服従/Subjection 征服 降服 従属 (哲) 服従 雌伏] [建国/Nationalization ← Nationalization * (哲) 建国] [帰化/Naturalization ← Naturalization * 異邦人ノ入籍 (法) 帰化] [事実/Fact 実事 事情 事 所行 事業 (哲) 事実] [総計/Totality 総高 総計 (哲) 統計] [社会/Society ②会 会社 社会院 連衆 交際 合同 世態 社友 (哲) 社会]

Age 項は訳語記述に括弧付き表示を欠いているが、訳語列をすべて挙げられ

ば「年代 世紀 一世 年齢 老年 生涯 一百年 受胎年齢 時世 一世 紀 時代」となっているが、『哲学字彙』はⅠ・Ⅱ版ともに「時代 年代」と2語形を挙げており、いずれも『新撰英和字典』に採用されながら括弧付き表示を省いたものとなっている。どちらもが学術専門用語として「其字義往々学科ニ從フテ異同アルガ故ニ括弧ヲ付シ以テ分別ス」といった凡例の方式を適用するには当たらないもので、むしろ日常通用の語の領分にあるとして括弧付き学問領域表示は付さないといった判断が編者によってなされたというところか。なお『増補訂正英和字典』は「世 一代 年紀 百年 年齢 生涯 時代 年代」と両語形を並べて挙げていることから両語形の扱いは等しいといってもよいが、『和英語林集成』英和の部における訳語列中での両語形の動向は、Ⅱ版で「時代」が採用されⅢ版で両語形がともに挙げられるといったものであり、「年代」が遅れて収載される点に両語形の扱いの差違を僅かにうかがうこともできる。

History 項は、『哲学字彙』Ⅰ版で立項なしの扱いであったが、Ⅱ版で掲出された訳語「歴史」を(哲)表示で採用したものである。

Naturalization 項については、『新撰英和字典』が「異邦人ノ入籍」と語でなく句を示していることにこの英単語訳出の困難さが表れているが、これは『増補訂正英和字典』の「異邦入籍 帰化(法理学ノ語)」記述と同趣である。先行する『附音插图英和字典』(明治6年刊)でも「外国人ヲ戸籍ニ入ル事」と句による説明だけが示されるというものであった。『哲学字彙』においてⅠ・Ⅱ版が一語のみ訳語「帰化(法)」を挙げるという状況を見ても、結局当該語に対する訳語の成長については、句の段階を踏みながら明治10年代対訳辞書世界では専門用語としての注記が必要だった「帰化」に落ち着いたありさまが観察できる。

Totality 項の記述については、『哲学字彙』Ⅰ版の「総計」とⅡ版の「統計」両語形がそれぞれ通常訳語扱いと(哲)表示付与と異なる処遇を受けている。『増補訂正英和字典』には「総計」一語のみが挙げられており、「統計」が見られないところに訳語における前者の先行ぶりもうかがえるが、これだけで断ずるには情報資料の不足がまだ大きいと言わざるを得ない。

4-1-2 【OO-】型

当該訳語が明治20年代半ばの大型漢語集成辞書『漢語英訳辞典』見出し項

目として見られるが、現代日用の国語辞書『岩波国語辞典第7版』には見出し立項されていないという動向を示したグループである。

本グループを一括して示すと次のとおりである。

【宗応】[昌盛/Prosperity ← Frosperity * 繁榮 幸福 祥瑞 安寧 (哲) 昌盛] [勳勞/Merit 功 功德 価値 (哲) 勳勞 勳功 功勞 功績] [誠信/Faith 信 信用 誠実 信心 信仰 信約 (哲) 誠信] [刑罪/Punishment 刑罪 処置 懲治 譴責 警戒 (哲) 刑罰] [練熟/Masterliness] [悔改/Repentance 後悔 (哲) 悔改] [降生/Incarnation 肉ニテ包ム事 肉芽萌生 (宗) 降生]

【政法】[政法/Political-law] [民政/Democracy 共和政治 (哲) 民政] [政法/Policy ② 政略 治法 計略 詭計 管理法 保険証書 警保 (哲) 政法 権道 術数]

【政応】[廉節/Temperance 適宜 節制 沈着 (哲) 廉節]

Merit 項において『哲学字彙』I版が「勳勞 功績」の2語を挙げII版がさらに「功勞 勳功」を追加した4語をあわせて掲出していること、Punishment 項において『哲学字彙』I版不立項もII版が立項し挙げた「刑罰」をそれぞれ(哲)表示で掲出したことは、II版重視の方針に沿ったものである。

Policy 項で『哲学字彙』I版の「政法 権道 術数」が(哲)表示となるのに対して、II版が追加した「政略」が通常訳語列の筆頭に回っているのは、『増補訂正英和字彙』『政略 権道 術数 政法 治法 管理法 計略 保険証書』の訳語記述を追った扱いであったか。なお明治6年の『附音插图英和字彙』では「政法 治法 管理法 計略 詭計 保険証書」の訳語列であり、再版で訳語改訂が行われる中『哲学字彙』と共有される「政略 権道 術数」が記述前方に配置され、そして『新撰英和字典』における「政略」の筆頭掲示につながるという流れに、当代訳語「政略」前進のさまをうかがうことができる。

Repentance 項の訳語「悔改」は、前稿に示したように「雅語難字ヲ用ヒテ己レノ虚名ヲ博スルカ如キニ倣ハス」として難解な専門用語を批判した『学校用英和字典』(明治18年刊)や同じく「其所主則平易卑近親切丁寧其所蒐則普通辞令學術用語要之欲益初学非所以敢示于大力也」と唱えて平易を旨とする『英和字海』(明治20年刊)といった辞書が「後悔」を採用し「悔改」を

斥けるといったことがある反面、『英語節用集』や『新訳英和字彙』（明治21年刊）そしてこの『新撰英和字典』のように平易な訳語採択を行いながらも『哲学字彙』I・II版が掲げた「悔改」を選択するという一派もある。第二次英学書ブーム期においては、やはり『哲学字彙』の影響が辞書間で受け継がれながら息づいており採用不採用のはざままで微妙に揺れ動く訳語が存在していることを見逃してはならないということである。

Incarnation 項「降生」については、宗教用語としての特殊性を各辞書編集者がどう判断するかで対応が分かれる。そもそも見出し語自体を立てない初学者向け『学校用英和字典』のような対応もあれば、『英和字海』のように語による訳出でなく「同上〈※稿者注：「肉ノ付テ居ル」を指す〉ノ事 人ノ形容」と分かりやすい句形式のみの解説方式を採るもの、或いは『新訳英和字彙』のように「同上〈※稿者注：「肉ノ付テ居ル」を指す〉ノ事 人ノ形容性質トナル事 降生（宗教学）」と句と専門用語扱いの語を併記して示すものもある。そして、『英語節用集』や本資料『新撰英和字典』のように『哲学字彙』I・II版「降生（宗）」を承けて宗教用語「降生」のみ掲出するという対応も見られる。辞書資料によってこうした対応の差異が生じることも考慮しながら言語情報の検討を行う必要があるということであろう。

Democracy 項に関しても、「民政」と「共和政治」の2語形をめぐって当代対訳辞書群での対応の異なりが見られる。『哲学字彙』I・II版が「民政」と単独表示しているのに対して、本資料『新撰英和字典』のように「民政」を学問領域表示付きにして両語形併記したのもあれば、『学校用英和字典』・『英和英袖珍字典』（明治21年刊）のように「共和政治 民政」と特に領域表示をせずに併記するものなどが見られる。一方で『新訳英和字彙』が「共和政治（政治学）」と「民政」を採り上げないという場合もあり、現代において「民政」語形が通用の語として存在していない結末が既に示唆されていたと考えることもできる。

4-1-3 【O-O】型

本グループは明治20年代半ばの大型集成辞書『漢語英訳辞典』の見出し項目として採用されないが現代国語辞書『岩波国語辞典第7版』に立項の扱いとなっているものである。一括して示すと、次のとおりである。

【宗哲】[秘教/Esotericism (哲) 秘教]

【學術】 [神学/Theology 神道 (哲) 神学] [詩学/Poesy]
【宗応】 [楽園/Paradise ← Paradise * 楽土 (哲) 天堂 楽園] [虚忘/Absurd 背理ノ 愚ナル 反对ノ (哲) 荒唐ノ 虚妄ノ] [涅槃/Nirvana ← Nivana * (哲) 涅槃 (梵語ニテ出離煩惱ノ義)] [画像/Portrait] [預知/Prescience ← Precience * 先見 (哲) 預知] [自覚/Self-consciousness (哲) 自覚] [偽計/Deceite] [利他/Altruism (哲) 愛他心 利他主義] [固執/Bigotry 固着 拘泥 (宗) 固執] [無碍/Unconditioned ← Unconditional * (哲) 自然ノ 無累ノ 無碍ノ 脱礙ノ] [永存/Persistence 固執 堅守 (哲) 永存] [不正/Wrong 過 過失 罪 訛錯 誤謬 不直 非 (哲) 不正 不是] [天真/Natural 天性ノ 天造ノ 生得ノ 万有ノ 当然ノ (哲) 自然ノ 天真ノ 合性ノ] [預言/Prophecy 占フ (哲) 預言スル 未来ノ事ヲ説ク] [強欲/Lust] [後住(寺ノ)/Provisor] [廢滅/Ruin 顛覆 廢滅 瓦解 傾倒 城址(都府家屋城壘等ノ) (哲) 零落 廢殘 荒毀] [供物/Sacrifice 供物 祭物 失喪 (哲) 祭祀 血食 犠牲] [心意/Mind 心 意志 情 願 嗜好 記臆 智慧 趣意 (哲) 心意] [牢獄/Jail] [進化/Evolution 展開 亢進 少廣 隊伍ノ轉變 (数) 開法 (哲) 開進 化醇 (生) 進化] [略説/Summary 略説 要略 拔萃 (哲) 要領] [神經/Nerve] [虚靈/Spiritual existence (哲) 法身 虚靈] [元始/Beginning 発端 原因 来歴 本源 (哲) 元始 太初 創始] [理想/Ideal 意ノ 想像ノ (哲) 観念的ノ 理想的ノ]
【人官】 [外道/Heresy 異教 異端 (宗) 外道] [仏陀/Buddha (哲) 浮 図 仏陀 仏 覺] [惡魔/Satan 惡魔 鬼魁 撒単 (哲) 恠魁] [幽 靈/Sprite] [齒医/Dentist] [牧師/Pedagoge]
【政法】 [動議/Motion 動 進動 移動 活動 挙動 動作 発言 (哲) 行動 (政) 動議 (物) 運動] [体制/Organization ← Oganization * 造構 局部構造 編制 処置 (哲) 体制]
【政応】 [内政/Administ-ration] [逆説/Paradox ① 奇怪ノ語 奇怪ニ 似テ却テ道理アル語 (哲) 逆説] [公準/Postu-late 無証ノ信用 仮定 定則 (哲) 公準] [預察/Presumption 假定 自信 擅行 (哲) 予察] [自制/Self-control (哲) 自制] [自決/Self-determination (哲) 自決] [詭弁/Sophism 巧弁 詭輪 (哲) 詭弁] [競争/Struggle ① 辛苦 勞

力 勉強 艱難 (哲) 競争] [同情/Sympathy 同視 同感 同心 交感 憐恤 慈心 (哲) 同情] [逆理/Unreasonable ← Anrea-sonable * 非理ノ 失理ノ 不合理ノ 情理ニ欠ケタル 法外ノ (哲) 逆理ノ] [発動/Act 所為 作業 作為 行為 劇務 法令 定例 (哲) 発動 (政) 決議書]

まず、『哲学字彙』Ⅰ版で項目なし、Ⅱ版で立項記述される項目について挙げる(「Ⅱ版」は『哲学字彙』Ⅱ版)。

Punishment 項←Ⅱ版「刑罰」 Absurd 項←Ⅱ版「虚妄 荒唐」 Ruin 項←Ⅱ版「荒毀 零落 廢殘」 Summary 項←Ⅱ版「要領」 Buddha 項←Ⅱ版「(浮図)(仏陀)(仏)覚」

これらには『哲学字彙』Ⅱ版を重用する編者の姿勢が反映しているということになる。Buddha 項についてはⅡ版の辞書本編ではなく「梵漢対訳仏法語彙」のパートで立項されており、『新撰英和字典』がこうした仏法用語を拾い上げて採用しているといったところに、Ⅱ版重視の方針をあらためて確認するばかりでなく、さらに「此書哲学ニ関スル語凡三千宗教数学心理学論法文法政理学法理學理財学社会学ノ語三千物理学ノ語凡一千化学語凡一千生物学語(動物学植物学ヲ含有ス)凡一千其他地質学語鉱物学語梵語等凡殆ンド一萬語ヲ竄入ス」と凡例で記した編集作業の内容の一端をうかがうことができ、興味深い。

さらに当代諸辞書資料に拡げて見ても、Buddha といった仏法用語を取り上げることは少なく、例えば『学校用英和字典』が立項して「仏」と記述するといった例が目にも留まるくらいである。ところが一方で、『哲学字彙』Ⅱ版の影響が大きなもの、『英語節用集』や『新撰英和字典』、そして『増補訂正英和字彙』でも初版では存しなかった Buddha 項が立項され「仏」の記述がなされる。明治10年代半ばにおける『哲学字彙』Ⅱ版の影響は対訳辞書世界において無視し得ないものがあるということとともに、宗教一般でなくその一部のものに過ぎない仏法用語といった狭い領域の専門性が高いものを収載するか否かで各辞書編者、特に平易通用の訳語を唱える者において、その扱いについての悩みもまた深かったであろうことが容易にうかがえる。

なお、先に〔○○○〕型で取り上げた Buddhism 項は『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版において本編部に収載されており、該辞書の中で仏法用語である Buddha と Buddhism の扱いが分かれていた点や、そのことが後続資料にどう影響し

たかといった点については、今後さらなる事情追究が必要となるところである。

Unconditioned 項において、『哲学字彙』I版「脱礙 自然 無碍【2行割注】」の訳語列にII版が「無累」を追加したものを含めて(哲)表示で並べたこともまた、『哲学字彙』II版重視の表れとなっている。

Prophesy 項は、『哲学字彙』I・II版ともにあげる「預言」と『増補訂正英和字彙』「未来ノ事ヲ説ク 説法スル」から最初の句形式の説明を採用して、(哲)表示のあとに並べて掲出しており、この英単語の翻訳・理解において単語「預言」では不足が生じると判断した編者の工夫が確認できる。「説法」が不採用となっていることともあわせ、当代のProphesy 訳出において検討すべき材料を提供しているものと考ええる。

Administ-ration 項には、編集作業上判断が揺れる些少の事情があったのかもしれない。『哲学字彙』I版が「管理(政) 内政」の2語を挙げII版がそれに「行政」を追加しているのを承けて、編者は「行政」単独の訳語としての掲出はせずに「行政部」「行政官吏」の熟語形を通常表示の訳語列中に挙げている。そしてまた一方で「管理」「内政」については、項目末尾に(哲)表示を外した通常形式で並べ置くという処置を取っており、これらの扱いから各訳語形に向き合う編者の意識の差異を観察することができる。

Administ-ration の訳語掲出の背景として、まず『附音挿図英和字彙』とその再版にあたる『増補訂正英和字彙』を確認すると、次の様相を示している。

『附音挿図英和字彙』：施行 指揮 管理 管轄 行法官

『増補訂正英和字彙』：施行 指揮 管理 管轄 行法官 執政者 内政
再版において末尾に「執政者 内政」を追加しているが、「行政」は収載されていない。また『新撰英和字典』が「管理」「内政」が『哲学字彙』にありながら通常訳語扱いにした判断は、『英和字彙』再版の記述を写し取ったものと考えerことで容易に察しがつく。『哲学字彙』と『英和字彙』を天秤にかけ、掲出内容とその体裁を決めて行った編集事情がここにかがえる。

Administ-ration の対応訳語について他資料の記述を見てみると、『和英語林集成』英和の部はI版で立項がなされなかったが、II・III版は次のようなありさまであった。

II版：Okonai segiyō tori-atukai shochi hodokoshi osame seiji matsurigoto shihai

Ⅲ版：Okonai segiyō tori-atukai shochi hodokoshi osame seiji matsurigoto shihai shikō kwankatsu kwanri

和語による訳出が目立つ中、漢語「shikō」「kwankatsu」「kwanri」がⅢ版で追加されているが、全体の訳語列中に「行政」は結局見当たらないままである。なお『和英語林集成』編者がⅠ版から既に存している「segiyō」に加えて「shikō」を増補していることについては、例えば『漢語英訳辞典』に次の記述が参考にできようか。

Shi-kō 施行, see Segiō 施行

Segiō 施行 (also read Shi-kō); operation; performance; administration; (as used also in colloquial) alms; charitable donations; (wo) suru, to conduct; carry out; administer; put into force; (as used in colloquial) to grant; bestow (as alms)

この記述内容から、「施行」の本項目としてはまず「セギョウ」語音形を考え「シコウ」語音形はそれに従するものとして扱うことが妥当であったようである。しかしながら、ヘボンがわざわざ「シコウ」語音形を追加したことには、「セギョウ」のもつ「(as used also in colloquial) alms; charitable donations」「(as used in colloquial) to grant; bestow (as alms)」といった貧者に対する慈善的寄付・施しといった世俗的で「colloquial」な意味合いとはまた別の、「セギョウ」からは少し距離を置いた、それこそ「行政」や「内政」といった新時代の政治学用語としての意味合いが漂う別音語形「シコウ」になり、念頭にあった可能性はなかるうか。『英語節用集』が「政治家応用語」の部門に本項目を所属せしめたことの意味はまさにここにあるとあってよいかと考える。

そうした目で眺めれば、『新撰英和字典』の筆頭訳語の「料理」とは慈善事業でふるまわれる類の俗世のものであって、『哲学字彙』の学術専門用語としての「管理」「内政」「行政」が訳語列に併存することをめぐって編集上の引っ掛かりを感じていたことも想定できる。ただ、そうであれば単純に(哲)表示付きにして通常訳語とは別扱いにすることができたはずであるが、それには先に見たように「行政」の単独掲示をめぐり悩みがまた同時にあって、結局そうした違和感や懊悩の中で組み上がったのが、『新撰英和字典』の項目記述であり、そこには整然とした内容・体裁が適わなかった編者の労苦を偲ばせる結末が残った、そのように考えるが現段階ではあまりに情報が乏しい中

での憶測に過ぎない。今後さらに材料を蓄積し解明への取り組みを図りたい。

以上のことからひとまずまとめると、明治10年代後半の対訳辞書において、Administ-ration の訳語として「行政」を掲出する状況は醸成されていなかったように見受ける。『新撰英和字典』が「行政」単独語形の収載を見送っているのは、対訳世界の当時の雰囲気なり情勢をそれなりに反映したものと見てよいのではないか。「行政」をどう処遇するか、また「管理」「内政」をどう表示するか、編者が悩みながら最終的に断を下した結果が如上の記述となって確定したと考えたいのである。

4-1-4 【〇--】型

本グループは、『新撰英和字典』に掲出されながら『漢語英訳辞典』見出し項目としては見られず、『岩波国語辞典第7版』においても項目として扱われていないものである。

【宗応】[邪執/Prejudice 私見 傾頗 阻礙 損害 (哲) 偏見 邪執] [謬信/Superstition 異端 邪教 執迷 (哲) 謬信 惑溺 淫惑] [信約/Credit 尊敬 道德 権勢 声誉 納金部 (哲) 信約] [執意/Volition 意味 主意 (哲) 執意] [成効/Result 成績 成果 結局 落着 決議 関係 跳反 (哲) 成効 菓実 結菓 (ママ) 効績] [瑞夢/Lucky-dream ← Luchy-dream*] [定道/Predestination 定数説 予定 (哲) 定道] [出板/Edition] [激因/Stimulus 激励物 刺衝物 (哲) 激因] [習成/Factitious 人造(工)ノ (哲) 習成ノ] [拝像/Idolatry 偶像礼拝 (哲) 拝像]

【人官】[逸士/Hermit 山人 (哲) 逸士 隠者] [審吏/Justice of the peace]

【政法】[君政/Monarchy 帝国 王国 独裁(ママ) 国立君政治 (哲) 君政] [機制/Mechanism 機関 装置 機械ノ功用 (哲) 機制]

【政応】[反情/Antipathy 抵抗心 性求ノ嫌ヒ (物) 相容レザルノ性 (哲) 反情] [妄論/Paralogism 虚偽ノ弁論 謬論 (哲) 妄論] [種属/Race ①族類 子孫 血統 苗裔 根 出処 酒香 (社) 種属 (生) 特種又類] [自護/Self-defence 自禦 自衛 (哲) 自護] [通理/Universal-truth (哲) 通理] [漸化/Variation 不同 差違 変化 変 偏差 差度 化醇 (文) 語尾ノ変 (生) 漸化 (論) 改変]

Superstition 項は『哲学字彙』I版が「謬信」1語で、II版がこれに「淫惑惑溺」を追加した記述を(哲)表示で採用したもの、Result 項は同I版「成効 菓実 結果」にII版「効績」を増補した記述を同じ要領で採り入れており、II版を重視し活用する方針の発露である。

一方で、句項目 Justice of the peace は、『哲学字彙』I版に項目が見られずII版で「典吏 保安官」の2語を掲出したものであり、これを活かすところかと思われた。しかしながら『新撰英和字典』は両訳語をともに採用せず、「審吏」1語のみを挙げ、『哲学字彙』を利用することがなかったこともあり括弧付き表示の訳語はない。これは『増補訂正英和字彙』の「審吏」(初版も同様)記述を採用したものであり、『哲学字彙』の記述内容は比較の上で不採用となったものと見られる。「典吏」「保安官」の訳語としての適否に関するこの『新撰英和字典』編者の判断態度については、今後当代資料の情報収集を進める中でさらに考えてみたい。

Variation 項に関しては、『哲学字彙』I・II版ともに示した「漸化(生) 改変(論)」記述を活かしたものであるが、『増補訂正英和字彙』「変化 不同 差違 語尾ノ変化(文法ノ語) 差度 偏差 化醇 漸化(生物学ニ云) 改変(論法ニ云)」の記述から「語尾ノ変」と「変化」を「変」とするなどして全訳語を採用し、さらには『増補訂正英和字彙』にない一字漢語「変」を記述に入れるなど「変」に寄せる編者の関心の高さがうかがえた。

4-2 [△型]

4-2-1 [△OO] 型

『新撰英和字典』が『英語節用集』訳語とは異なる語形を採用し、かつ『漢語英訳辞典』『岩波国語辞典第7版』では『英語節用集』の訳語が見出し語として収載されているものであり、現代語語彙体系に定着を見たと考えてよいものである。

【宗応】[蘇生/Revive 再生スル 活潑ニナル 更ニ振起スル 甦ラス 再興スル 新ニスル 恢復スル 原質ニ復ス (哲) 恢張スル] [感動/Impression 押着 思慮 版 印判 意思 記号 (哲) 印象] [驕慢/Pride 華美 驕傲 (哲) 夷俟 倨肆 傲慢 驕倨] [信仰/Devotion] [宗徒/Apostle 耶蘇徒弟 使僧 (法) 控訴 [コウソ] 始末書] [悲痛/Lamentation 哭声 悲哀 (哲) 悲嘆 痛哭] [施物/Almonry 濟貧所]

[信用/Belief 道 道理 条理 (哲) 信 信仰 憑信 依信 信心] [集会/Assemble] [驚愕/Wonder 驚異 奇妙 珍奇 珍物 (哲) 驚駭 愕胎] [奇談/Paradox ②← Padox* 奇怪ノ語 奇怪ニ似テ却テ道理アル語 (哲) 逆説] [愚痴/Obtuseness] [客舎/Public-house] [自負/Self-confidence] [講談/Lecture ← Pecture* 説法 復説 譴責 (哲) 講義 講演] [差別/Difference 區別 不同 不和 争論 剰余 較 (哲) 差違 支吾 分別 徑庭 齟齬 異点 (論) 特異性] [一致/Consort] [守護/Conservation 蓄藏 保護 (哲) 保存] [改革/Revolution ①回轉 循環 動乱 民変 (哲) 革命 轉覆] [理論/Declamation] [社中/Company] [外部/Exterior] [單純/Similar] [基礎/Founded] [愛情/Love 恋 寵愛 仁恵 愛国ノ情愛者 (哲) 恋情 親愛] [自滅/Self-destruction] [拝礼/Supplication ← Sppliation*] [意思/Will 意 主意 志向 愛 欲 好 權 決意 願望 命令 遺言 遺書 (哲) 意志] [有形/Physical] [公平/Conscientiously] [支配/Domination] [葬礼/Interment] [慣習/Habit 衣服 風俗 習慣 狀態 上服 (哲) 氣習 (生) 習性] [非情/Insensible]

【人官】[僧正(邪教ノ)/Bishop 監牧師 飲料ノ名 女ノ衣服ノ一部分 (哲) 教頭] [朋党/Party ①党類 同夥 对手 社中 方 一隊ノ兵 (哲) 徒党] [天狗/Cherubim] [紳士/Gentle-man 大人 先生 縉紳 (平民以上ノ人ヲ云)] [農民/Peasant] [平民/Laity] [伶人/Musician] [碩儒/Polymathy 諸芸ノ知識 (哲) 碩学] [官員/Officer 官吏 官人 士官(海陸軍共ニ) 将校] [長官/President] [出家/Monk] [眷属/Kin 親族 同属 血属 同質 (哲) 親属] [法師/Clerk] [叔母/Aunt] [門徒/Member ①句 段 章節 肢 (哲) 会員] [医師/Physician ②]

【政法】[法制/Law ①法理 律令 制度 禁令 規条 格令 定則 詞訟 (哲) 法 法律 規制 条例 理法 格率] [布達/Proclamation 布令 告示 宣告 上諭 (哲) 宣伝 布告] [広告/Notification] [指令/Order ①順序 次第 等級 品階 齊声 規則 章程 部類 注文 (哲) 秩序 倫次 品級 命令 倫紀 (生) 科目] [規則/Regulation ① (哲) 法度 条例 章程 修理 治厘 整理] [建白/Memorial] [請願/Petition 願書 懇求 祈念 (政) 歎願]

【政応】[律令/Canon 法典 聖經 諸聖人ノ名目 牧師 大形活字 (哲)
理法 律例 注 教会法 代] [要路/Compendium]

【堂処】[市街/Street] [旅館/Hotel]

【年歴】[闘争/Struggle ②← Straggle* 辛苦 勞力 勉強 艱難 (哲)
競争] [人種/Race ②族類 子孫 血統 苗裔 根 出処 酒香 (社)
種属 (生) 特種又類]

4-2-2 【△○-】型

『英語節用集』訳語が『新撰英和字典』の記述中には存せず、当該訳語が『漢語英訳辞典』で見出し収載されたが、現代日用のことばとしては通用国語辞書に立項されないものである。

【宗応】[除地/A lloidium 私有品 私産 (法) 私有地] [記憶/Memory
記念 注意 碑記 (哲) 記憶] [悦服/Obey]

【政応】[虚誉/Vain-glory] [中裁/Reconciliation 勸解 一致 (哲) 講
和 仲裁 調停]

4-2-3 【△-○】型

『新撰英和字典』で一致語形が見られず、『漢語英訳辞典』においても立項されないが、当該訳語が現代日用のものとして残ったと言えるものである。

【宗応】[常住/Unchangeable] [無常/Changeable] [信心/Spirituality]
[輪廻/Transmission 転移 運搬 寄送 透通 (物) 伝導 (生) 形質遺
伝] [演説/Speech] [不能/Impossible] [運命/Destiny 天運 命運
(哲) 命数] [推理/Inference 定説 決定 (論) 推度法] [土葬/
Catacombs] [殖民/Settler ← Settled]

【人官】[巫女/Witch 使魔女 曲岸 (哲) 女巫] [婦女/Woman] [教
官/Teacher] [坊主/Monastic]

【政応】[大本/Fundamental-principle] [非議/Reproach 誹謗 呵責 非
難 汚辱 (哲) 斥罵 詬病]

【堂処】[墓地/Church-yard]

4-2-4 【△--】型

『新撰英和字典』で一致語形が存在せず、『漢語英訳辞典』『岩波国語辞典第

7版』ともに立項しないものであり、現代日用の語として使われることのないものである。

【宗応】[怒恚/Rage 憤怒 怒気 奮恨 罵詈 狂妄 (哲)忿怒] [味趣/Taste 味 滋味 趣味 決断 一口 弁別 (哲)風味 雅趣 (心)味覚] [崇奉/Adulation ← Adration*] [布弘/Propagation 生殖 蕃殖 生育 宣伝 (哲)伝播 布揚] [寺法/Canon-law ← Conon-Law*] [有体/Corporeal] [敬謹/Respectful] [原素/Elements 本質 基本 初学 初等 成分 (化)元素] [智覚/Feeling ②知覚 感官 (五官ノ一) 感動 慈心 (哲)感応]

【人官】[仏弟/Buddhist] [耶蘇/Christ] [弁者/Eloquent] [諸生/Scholar] [蕃民/Savageness]

【堂処】[貧院/Alms 施物 濟財 賑恤品] [屋宇/Edifice]

4-3 [-] 型

『新撰英和字典』において立項が見送られたものである。これらについては、『哲学字彙』II版の立項状況・訳語掲出状況を《》内に示しておく。『新撰英和字典』はそれを見た上で作業を進めたわけであるから、特に破線を付しているものは『哲学字彙』II版に項目・記述がありながら採用を見送るとい判断がなされたところであり、当該訳語に対する編者の意識をうかがい知る上で良い材料を提供してくれている。

4-3-1 [-OO] 型

『新撰英和字典』で項目を立てることがなかったが、当該訳語については『漢語英訳辞典』『岩波国語辞典第7版』に見出し立項がなされ、現代において通用のことばとして定着しているものである。

【宗応】良心/Moral sense ← Moralsence* 《項目なし》 現世/Present-world 《項目なし》 木像/Wooden-idol 《項目なし》 五官/Five-senses 《項目あり：五官》 悪念/Evil-thought 《項目なし》 悪業/Evil-deed 《項目なし》 楽譜/Music-book 《項目なし》 怠惰/Neglectedness 《項目なし》 故郷/Native-place 《項目なし》 後悔/Contriteness 《項目なし》 誘引/Exticement 《項目なし》 精進/Religious-abstinence ← Religious-abstmenct * 《項目なし》 教化/Humanization 《項目なし》

【人官】賢者 /Wise-man 《項目なし》 皇族 /Royal-family 《項目なし》 学者 /Learned-man 《項目なし》 聖人 /Holy-man 《項目なし》

【政法】政権 /Political-right 《項目なし》 軍律 /Martial-law 《項目あり：軍律》 行政 /Executive-power 《項目なし》 立法 /Legislative-power 《項目なし》 虐政 /Cruel-Government 《項目なし》 県令 /Governor of province ← Governor of provinc * 《項目なし》 国法 /Municipal-law 《項目あり：市法》

【政応】黙許 /Tacit-consent 《項目あり：黙許》 腕力 /Physical-force 《項目あり：腕力 物質力 体力》 全権 /Absolute-power 《項目あり：全権》 与論 /Public-opinion 《項目なし》

【堂処】本寺 /Mother-church 《項目なし》 薬舗 /Apothecary-shop 《項目なし》

4-3-2 [-○-] 型

『漢語英訳辞典』には収載されるが、現代日用には見られないものである。

【宗応】覚他 /Tolead consciousness of otherselves 《項目なし》

4-3-3 [-○] 型

『漢語英訳辞典』で立項はなされないが、『岩波国語辞典第7版』に立項されており、現代通用のことばとして残っているもの。

【宗応】自利 /Self-benefit 《項目なし》

【人官】演者 /Speech-man 《項目なし》 詩家 /Poet 《項目なし》

【政応】自責 /Self-reproach 《項目あり：自責》

【堂処】仏堂 /Budder 《項目なし》

4-3-4 [---] 型

『英語節用集』に訳語掲出されたものの『新撰英和字典』、『漢語英訳辞典』で立項はなく、現代の『岩波国語辞典第7版』においても見出し項目が見られず、日用語としての定着が果たせなかったことばである。すべて【政法】・【政応】部門に属する政治領域のもので占められることとなった。

【政法】天権 /Natural-right 《項目あり：天権 天賦権利》 徳権 /Moral-right 《項目あり：徳権》 法権 /Legal-right 《項目なし》 純権 /

Absolute-right 《項目なし》 大輔 /Vice-minister 《項目なし》 少輔 /
Assistant vice minister 《項目なし》 知府 /Governor of department 《項目
なし》 用式 /Modus-ponens 《項目あり：用式》 廢式 /Modus-tollen 《項
目あり：廢式》 性法 /Law of nature 《項目なし ※ Natural law 性法
万有法》

【政応】明許 /Express-consent

おわりに

今回取り上げた辞書資料『新撰英和字典』については、既に詳細な考察がなされた先行研究があり、本稿の調査はその土台に乗せていただいて小さな範囲でデータを作成し分析したに過ぎない。その検討の中、部分的な成果にとどまるものではあるが、本資料の編集作業において編者が直面し対応を迫られたであろう当代日本語語彙の動向に関する情報を蓄積できたのではないかと思う。

今後とも明治期対訳辞書資料の研究分析を進め、資料中に残された複雑に絡み合うことばの情報を整理しながら、引き続き当代日本語に関する基礎的なデータの構築を図って行きたい。

◎本稿は、平成29～令和2年度科学研究費補助金基盤研究(C)：研究課題「福岡に残る洋学資料コレクション筑紫文庫資料を主対象とした近代対訳辞書の基盤研究」を活かした研究成果の一部である。

【注】

注1 屋名池(1991)が示した区分。安政6年から明治6年までを第一次英学書ブーム期と称し、明治15年以降を第二次英学書ブーム期としている。

注2 本稿の調査に用いた『英語節用集』は、大阪府立大学(旧大阪女子大学)蔵本である。書誌情報等は原口(1991)を参照されたい。『英語節用集』緒言は次の通りである。

余カ此編ヲ艸スル固リ一朝ノ偶意ニ非ス 顧フニ講談演説ノ都鄙ノ間ニ行ハル、未タ現時ヨリ盛ナル者アラサルナリ 而テ之レカ弁士タル者必ス先ツ各種ノ学ニ通シ該羅余スコトナク其蘊籍スル所ヲ流ル、カ如キノ雄弁ヲ以テ演出スルハ固リ 講談演説ノ最上乘ニシテ余輩カ喙ヲ其間ニ容ル、ヲ得ヘキ所ニ非スト雖モ 彼寒村僻邑ニ在リテ書籍師友ニ乏シキ人ニ至テハ宗教ハ仏教耶蘇教等ノ四五種ニ止マルカ如ク哲学ハ狭

留斯辺撤ノ二三子ニ限ルカ如キノ感ナキ能ハス 況ヤ学者応用ノ術語ノ如キハ之レヲ知ラサル人モ亦タ少ナカラサルヲ信ス 又該博万卷ノ書ヲ読ムノ人ト雖モ宗教哲学政党及ヒ之レニ関スル術語ノ衆多ナル一之レヲ暗記スルハ至難ノ事タリ 且ツ宗教哲学ノ術語ニシテ東西其名ヲ異ニシ其實ヲ同スルモノ、如キ亦頗ル多シ 因テ是等ノ諸名詞ヲ纂集シ 一ハ以テ寒村僻邑ノ諸子ノ為ニシ 一ハ以テ已達弁士ノ備忘ニ供セント欲シ 間々之ヲ輯録スト雖モ 余カ浅識ナル誤謬少ナカラスシテ大方ノ嗤笑ヲ取ラントコトヲ畏レ未タ之レヲ世ニ公ニセス 頃日遠郷ノ諸友屢書ヲ寄セテ其出版ヲ慫(與+心)セラルヲ以テ 已ムヲ得ス之レカ校閲ヲナシ且ツ各国政体及ヒ宗教ノ統計ヲ付記シ以テ活字ニ付ス 若シ誤謬アラハ幸ニ教示ヲ賜ヘ他日之レヲ改正補刪スヘキ也 編者識

注3 該書の本編は次のように8部門構成となっている。()内は本稿における各部門の略称である。

宗教及哲学論派名称【**宗哲**】：135項目／学術名称【**學術**】：61項目／宗教家応用語【**宗応**】：284項目／人品及官位【**人官**】：160項目／政治及法制【**政法**】：123項目／政治家応用語【**政応**】：93項目／堂屋及処名【**堂処**】：40項目／年代及歴史【**年歴**】：18項目

『英語節用集』本編は総計914項目を上記8部門に分配した節用集仕立ての構成を取る。本編以外に巻末付録として「各国政体及宗教」の部が添えられている。

本稿中のデータ記述において、「←」は『英語節用集』英字綴りの単純な誤用と判断し綴りを仮に修正したものである。「(修正された綴り字表記) ← (誤用等と判断した原綴り字表記)」のように示す。英字見出し語形に①②のように付したものは、『英語節用集』において重複立項されたもので、資料中で先に掲出されたものを①として表示する。各リストにおける項目データの掲出順序配列は、『英語節用集』における出現順序にしたがっており、上記の部門別に並ぶこととなる。

注4 以下のように時期・ジャンルを分けて考え、グループ化して示す。

(1) 第一次英学書ブーム期に関わるものとして、『英和掌中字典』(明治6年刊)と『写真石版附音挿図英和字彙』(刊行は明治18年であるが、第一次ブーム期刊本の復刻版である)の二資料を挙げる。

(2) A 第二次英学書ブーム期の初期に出版された中国系対訳辞書として、ここでは『華英字典』(明治14年刊)を挙げる。

(2) B i 第二次英学書ブーム期のうち明治10年代半ばから後半にかけての国内対訳辞書グループとして、『英和袖珍字彙』(明治17年刊)、『学校用英和字典』(明治18年2月刊)、『英和正辞典』(明治18年9月刊)、『新撰初学英和辞書』(明治18年10月刊)、『訂訳大全英和辞書』(明治18年10月刊)、そして今回調査対象となった『新撰英和字典』(明治19年6月刊)。

(2) B ii 第二次英学書ブーム期のうち明治20年代の国内対訳辞書グループとして、『英和字海』(明治20年1月刊)、『英和小字彙』(明治20年5月刊)、『插画訂訳英和对訳新辞林』(明治20年10月刊)、『新訳英和字彙』(明治21年3月刊)。

(3) 明治20年代大型集成的対訳辞書グループとして、『漢英対照いろは辞典』(明治

21年刊)、『漢語英訳辞典』(明治22~25年刊)。

(4) 現代日用国語辞書である『岩波国語辞典7版』(平成24年刊)。

注5 なお『日本国語大辞典 第二版』「系統」項においては、初出用例の扱いで「『哲学字彙』(1881)」と表示するが、『哲学字彙』II版の刊行年は1884年にあたる。

【調査関連資料類】

『和英語林集成』I版：九州大学筑紫文庫収蔵本及び『A Japanese and English Dictionary with an English and Japanese Index』(Tuttle Publishing)の複製本を使用。慶応3年刊行。同II版：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治5年刊行。同III版：講談社学術文庫の複製本を使用。明治19年刊行。

『附音挿図英和字彙』(I版)・『増補訂正英和字彙』(II版)：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治6年・明治14年刊行。

『英和掌中字典』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治6年刊行。

『華英字典』：永峰秀樹訓訳『華英字典』。中身は英語見出しによる英和对訳辞書。九州大学筑紫文庫収蔵本を使用。明治14年刊行。

『訂増英華字典』：『近代日本英学資料8 訂増英華字典』ゆまに書房 1995年刊。

『哲学字彙』(I版)・『改訂増補哲学字彙』(II版)：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。それぞれ明治14年・明治17年刊行。

『英和袖珍字彙』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治17年刊行。

『新撰初学英和辞書』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治18年刊行。

『写真石版附音挿図英和字彙』：家蔵本(『附音挿図英和字彙』初版の縮刷写真版)を使用。明治18年刊行。

『学校用英和字典』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治18年刊行。

『英和正辞典』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治18年刊行。

『訂訳大全英和辞書』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治18年刊行。

『新撰英和字典』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治19年刊行。

『英和字海』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治20年刊行。

『英和小字彙』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治20年刊行。

『插画訂訳英和对訳新辞林』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治20年刊行。

『新訳英和字彙』：国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料を使用。明治21年

刊行。

- 『漢英対照いろは辞典』：『明治期国語辞書大系 [普2] 漢英対照いろは辞典』（1997 大空社 飛田良文ほか編）を使用。明治21年刊行。
- 『増訂二版和漢雅俗いろは辞典』：『明治期国語辞書大系 [普2] 漢英対照いろは辞典』（1997 大空社 飛田良文ほか編）を使用。明治26年刊行。
- 『漢語英訳辞典』：九州大学筑紫文庫収蔵本を使用。一部落丁箇所を国立国会図書館デジタルコレクション公開の画像資料により補う。明治22～25年刊行。

【参考文献類】

- 豊田 実 (1963)：『日本英学史の研究』新訂初版 千城書房
- 原口 裕 (1991)：大阪女子大学附属図書館編『大阪女子大学蔵蘭学英学資料選』 第2章「単語集・会話集」
- 飛田良文 (2007)『日本語学研究事典』（2007 明治書院）「英華・華英事典」項
- 森岡健二 (1969)：『近代語の成立 明治期語彙編』 明治書院
- 屋名池誠 (1991)：大阪女子大学附属図書館編『大阪女子大学蔵蘭学英学資料選』 第1章「綴字書・運筆書・横文字紹介書」
- 湯浅茂雄 (2005) 英和字彙系の一書、『新撰英和字典』の資料性について（近代語研究会編『日本近代語研究4』 ひつじ書房）
- 今井一良 (1969)『明治初年金沢出版英和辞典の研究』（非売品）
- 坂本浩一 (2000)：明治期対訳辞書と漢語辞書をめぐる一考察 — 『漢語英訳辞典』を中心に — （『香椎潟』46号）
- 坂本浩一 (2006a)：『英語節用集』をめぐって — 周辺主要辞書との所収部別対照調査報告 — （国語語彙史研究会編 和泉書院刊『国語語彙史の研究 二十五』所収）
- 坂本浩一 (2006b)：明治期日欧言語交流史の一研究 — 『英語節用集』所収二字漢字表記語の『漢英対照いろは辞典』および『漢語英訳辞典』における収載状況をめぐって — （『香椎潟』52号）
- 坂本浩一 (2007)：明治期日欧言語交流史の一研究 — 『英語節用集』所収二字漢字表記語の『漢語英訳辞典』における収載状況をめぐって — （『文藝と思想』71号）
- 坂本浩一 (2008)：明治期日欧言語交流史の一研究 — 『英語節用集』所収二字漢字表記語の『写真石版附音挿図英和字彙』における収載状況をめぐって — （『文藝と思想』72号）
- 坂本浩一 (2009)：明治時代第二次英学書ブーム期における対訳辞書資料の一検討 — 『英語節用集』所載訳語の『訂増英華字典』における収載状況を中心とする周辺対訳辞書資料数種を交えた語彙調査分析 — （『香椎潟』55号）
- 坂本浩一 (2010)：明治期日欧言語交流史の一研究 — 『英語節用集』所収二字漢字表記語の永峰秀樹訓訳『華英字典』における収載状況をめぐって — （『文藝と思想』74号）
- 坂本浩一 (2012)：明治期日欧言語交流史の一研究 — 『英語節用集』所収二字漢字表記

- 語の『新撰初学英和辞書』における収載状況をめぐって — (『香椎湯』56・57合併号)
- 坂本浩一 (2013): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 青木輔清編『英和掌中字典』の訳語収載状況をめぐって — (『文藝と思想』77号)
- 坂本浩一 (2014): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 中村国太郎編『寸珍和英字彙』の訳語収載状況をめぐって — (『文藝と思想』78号)
- 坂本浩一 (2015): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 西山義行編『英和袖珍字彙』における訳語収載状況をめぐって — (『文藝と思想』79号)
- 坂本浩一 (2016): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 箱田保顕纂訳『訂訳大全英和辞書』における訳語収載状況をめぐって — (『文藝と思想』80号)
- 坂本浩一 (2017): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 松村為亮編訳『插画訂訳英和対訳新辞林』における訳語収載状況をめぐって — (『文藝と思想』81号)
- 坂本浩一 (2018): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 小山篤叙纂訳『学校用英和字典』における訳語収載状況をめぐって — (『文藝と思想』82号)
- 坂本浩一 (2019A): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 棚橋一郎・鈴木重陽同纂『英和字海』における訳語収載状況をめぐって — (『文藝と思想』83号)
- 坂本浩一 (2019B): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 滝七蔵編訳『英和正辞典』における訳語収載状況をめぐって — (『香椎湯』60号)
- 坂本浩一 (2020): 明治期日欧言語交流史の一研究 — 岩貞謙吉編訳『新訳英和字彙』における訳語収載状況をめぐって — (『文藝と思想』84号)